ドイツにおける政党政治の動向に関する一考察

――州レベルを中心に，州議会選挙の結果（1991－2020年）から見える全般的動向と，近年における新たな連立の状況（2014－2020年）（2）（完）――

津　崎　直　人

第２章　諸州における新たな連立の状況（2014－2020年）

（1）　黒緑連立－ヘッセン州（2014年－現在）

CDU と緑の党の関係の歴史の概要（1980年代－現在）

まず，CDU と緑の党の関係の歴史について概要を説明する。1980年に設立された緑の党は1983年の連邦議会選挙で初めて議席を獲得したが，当初は CDU/CSU との隔たりは大きかった。しかし，現実主義的な立場を取る政治家達が増え始め，CDU との交流も拡大し，1990年代半ばから市レベルで黒緑連立政権が成立し始めていた。そして，州レベルでは2008年４月，ハンブルクで初めて黒緑連立政権が成立した。しかし，当初から両党の関係は緊張し続け，2010年11月，緑の党が CDU への不信感を理由に連立政権からの脱退を表明したことによって，州レベルで初の黒緑連立政権は終了，５年の任期を全うできなかった[1)]。

しかし，ヘッセン州で2013年９月22日に実施された州議会選挙の後，約３か月に及んだ諸政党間の交渉を経て2014年１月18日，黒緑連立政権が誕生した[2)]。ハンブルク（およびベルリン，ブレーメン）のように州と同格

の都市は「都市州」と呼ばれるが，ヘッセンは都市州以外で黒緑連立政権が成立した最初の州となった。以下，まずは州議会選挙から，黒緑連立が成立するに至った経緯を説明する。

州議会選挙（2013年9月）から黒緑連立政権の成立（2014年1月）まで

まず，選挙前まではCDUの首相（2010年－現在）ボフィエー（Volker Bouffier）がFDPとの連立政権を率いていたが，野党のSPD，緑の党との対立が激しく，世論調査によるとCDUとFDPの支持率の合計値が，SPDと緑の党の支持率の合計値と拮抗する状態が続いていた。ヘッセン州ではかつて赤緑連立政権があったように（1984－87，1991－99年），両党の協力関係は強く，選挙の結果次第では赤緑連立政権が成立する可能性があった。さらに，FDPの支持率が低迷し，議席獲得に必要な得票率5％に達しない可能性も危惧されたため，CDUとFDPの連立を維持できなくなる可能性もあった[3)]。

そのような状況に面してボフィエーは2013年7月，選挙後は緑の党との連立の可能性があり得るという立場を表明した。ボフィエーは2010年に州首相に就任して以来，前任の首相（1999－2010年）コッホ（Roland Koch）が取っていた野党に対する強硬な対決姿勢とは異なる柔軟な立場を取り，環境，難民問題等で緑の党に近い諸政策も取るようになっていた。CDUの選挙プログラムにも緑の党に近付く諸政策が盛り込まれた。CDUにとってはFDPとの連立を維持できなくなった場合でも，左翼党との連立はあり得ず，AfDとの連立は否定し，SPDは大連立に消極的であったため（また，単独過半数はほぼあり得なかったため），選挙後に政権を維持するためには，緑の党との連立というオプションを確保しておくことが非常に重要になっていたのである。そのために，ボフィエーは早くから緑の党に近付く立場を示していた[4)]。

なお，CDU/CSU及びSPDの弱体化とAfDの躍進という，後に多くの州で連立の多様化をもたらすことになる問題は，当時のヘッセン州ではま

だなかった。しかし，ヘッセン州は全16州のなかでも政党間の競争が最も激しかった州の一つであったため，同州に特有の困難な政治状況が黒緑連立の可能性を生み出していたのである。

そして，2013年９月22日に実施された州議会選挙の結果，各政党の獲得議席数（および得票率）は以下のとおりとなった。CDU：47（38.3%），SPD：37（30.7%），FDP：６（５%），緑の党：14（11.1%），左翼党：６（5.2%），AfD：０（4.1%），総議席数：110。CDU と FDP の連立（計53議席）も赤緑連立（計51議席）も過半数（56）に達することができない状況となり，CDU はまず SPD と連立交渉を開始した。大連立（計84議席）なら過半数を大きく上回るが，SPD はやはり消極的で合意には至らなかった。SPD が望んだのは緑の党，左翼党との３党による，自らが第一党となれる赤赤緑連立だが，これも合意には至らなかった。そのため，過半数を上回る連立は黒緑連立だけになり，その成立を目指す交渉が始まることになった[5)]。

CDU は緑の党に近付く立場を選挙前から示していたが，立場を異にする問題も少なくなく，とくに最大の争点となったフランクフルト空港の増設問題のために合意は困難という予測もあった。CDU は経済効果を重視し，第３ターミナルの新設を主張したが，緑の党は騒音対策を重視し，新設に反対したのである。しかし，この問題についても妥協が成立したために両党は連立の形成について合意し，2014年１月18日，ボフィエーが CDU と緑の党の賛成に基づいて首相に選出され，黒緑連立政権が正式に成立した。空港問題に関する妥協において，CDU が第３ターミナル建設計画の再検討を認めたものの，緑の党が主張した計画中止について明確な合意がなされた訳ではなかったため，総じて，建設の可能性を残す内容となった（実際に，建設が始まることになった）。つまり，緑の党が譲歩する内容の妥協であった。閣僚ポストの配分も CDU が６，緑の党が２というように，総じて連立に関する合意は，議席数で劣る緑の党にとって不利な内容にならざるを得なかったのである。

ボフィエーと，緑の党のヘッセン州支部代表アル・ヴァジール（Tarek Al-Wazir）は合意に至ったことを評価しつつ，アル・ヴァジールは，黒緑連立は，それぞれが本来望んでいた連立（CDU と FDP の連立，赤緑連立）が不可能になったから成立し得たに過ぎない，とも述べた[6)]。果たして，黒緑連立は本当にうまくいき，成果をもたらすことができるのか。

黒緑連立政権 1 期目（2014年 1 月－2018年10月）の評価

ボフィエーが率いた黒緑連立政権の 1 期目については，肯定的な評価が一般的である。ボフィエーとアル・ヴァジールの個人的な友好関係をはじめとして両党は協力関係を育み，維持することができたため，政権運営が安定した。ボフィエーは2010年に首相に就任した頃から柔軟な態度を示すようになっていたが，個人的な性格としても愛想がよく社交的で，話し易く，アル・ヴァジールは現実主義的な人物であった。そのような指導者達の個人的な資質も，両党の協力関係を維持するために重要であった。ただし，無論，立場を異にする問題も多くあったが，協力関係に基づき慎重な協議を重ねることによって対立の深刻化を避けることができた（後述するとおりザクセン＝アンハルト州のケニア連立では，CDU と緑の党が深刻な紛争を何度も経験しているが，ヘッセン州の黒緑連立はそのような紛争を経験していない）[7)]。

そして，具体的な諸成果は以下のとおり。まず，経済の好調を背景に失業率は4.4％にまで低下したが，統一後で最も低い数値であり，全16州のランキングでは（バイエルン，バーデン＝ヴュルテンベルクに次ぐ）第 3 位である。治安のための警察の強化については元来，慎重な緑の党も積極的に協力したことによって警察官の大幅な増員と捜査体制の強化が可能となり，犯罪事件の解決率は（20年前の約47％から）約63％にまで上昇したが，この数値は全16州のランキングでは（バイエルン，バーデン＝ヴュルテンベルクに次ぐ）第 3 位である。最大の争点であったフランクフルト空港の増設問題については第 3 ターミナルの建設が始まり，この点では緑の党が

譲歩を余儀なくされたが，総発電量に占める再生可能エネルギーの割合を２倍に増やすという，とくに緑の党が重視していた公約も達成された。その他，教員の増加や地域交通の拡充，児童福祉政策，難民問題への対処等についても概ね肯定的に評価されている。総じて，CDU が重視する諸問題だけではなく，緑の党が重視する諸問題でも様々な成果が得られたが，両党が協力関係を維持したからこそ，それらが可能であったと言える[8)]。

では，以上の成果を有権者はどのように評価したのか。

各政党の支持率の変遷，2018年州議会選挙，黒緑連立政権第２期へ

表10が示すように CDU の支持率が低下し続ける一方で緑の党が支持率を大きく伸ばし，2018年10月28日に実施された州議会選挙における，CDU の得票率27％は前回（38.3％）から11.3ポイントのマイナスとなり，CDU

表10：世論調査，ヘッセン州における各政党の支持率の変遷（2014－2020年）

実施機関	結果の公表日（年/月/日）	C	S	F	G	L	A	他
州議会選挙（13/9/22）での得票率		38.3	30.7	5.0	11.1	5.2	4.1	5.6
Dimap	14/12/16	38	27	2	16	7	5	5
Forsa	15/9/2	38	28	5	13	5	4	7
dimap	16/8/24	33	27	4	13	6	9	5
Infratest dimap	17/1/12	32	24	6	14	8	14	2
Infratest dimap	18/1/19	31	25	8	13	8	12	3
Forschungsgruppe Wahlen	18/10/25	28	20	8	20	8	12	4
州議会選挙（18/10/28）での得票率		27	19.8	7.5	19.8	6.3	13.1	6.6
INSA	19/12/24	26	16	8	23	9	13	5
Infratest dimap	20/2/17	26	16	7	25	8	12	6
Infratest dimap	20/5/14	36	18	7	20	4	10	5

出典：<https://www.wahlrecht.de/umfragen/landtage/hessen.htm> に基づいて筆者が作成。（最終閲覧日：2020年10月25日）

にとってヘッセン州史上最低の数値となった。緑の党の得票率19.8%は前回（11.1%）から8.7ポイントのプラスとなり，緑の党にとってヘッセン州史上最高の数値となった。AfD も前回（4.1%）から 9 ポイント増やして13.1%にまで増大させたが，2018年選挙の最大の勝者は概ね緑の党と目されている。CDU が支持率と得票率を低下させた最大の理由として，緑の党の立場に近付き過ぎたため保守政党としてのイメージが弱まり，保守層からの支持を失ったことが指摘されている。また，（難民問題による）連邦レベルでの支持率低下も影響した。一方で，緑の党は政権与党として機能できたことが高く評価された[9)]。

各政党の獲得議席数は以下のとおり。CDU：40（前回：47），SPD：29（37），FDP：11（6），緑の党：29（14），左翼党：9（6），AfD：19（0），総議席数：137。CDU が議席数を減らしたものの，緑の党が増やしたために黒緑連立の合計議席数（69）は，過半数（69）に辛うじて達することができた。ただし，ボフィエーは政権運営の安定のために FDP も加えたジャマイカ連立の成立も目指したが，FDP が拒んだために実現せず，2期目の黒緑連立政権が成立することになった（FDP は新自由主義路線を強めているため，環境保護を党是とする緑の党との連立は基本的には難しい）。なお，過半数を上回ることができる，他の連立として大連立，CDU と FDP，信号（SPD，FDP，緑の党），赤赤緑（SPD，緑の党，左翼党）もあり得たが，実現しなかった[10)]。

2期日の黒緑連立政権でも1期目と同じく，これまでのところ両党の協力関係が維持されているようであるが，表10が示すように，2020年2月頃までは CDU の支持率は低迷し，緑の党が支持率を伸ばし続けていた。緑の党は全国（連邦）レベルでも，環境問題への関心が高まったことによって支持率を上昇させていたが，それが州レベルの支持率にも影響していたことが考えられる（これは，他の多くの諸州でも見られた現象である）[11)]。しかし，2020年5月以降は CDU の支持率が大幅に上昇している。その理由として，新型コロナウイルス問題への，CDU を中心とする連邦政府の対

策が高く評価されて，CDU の支持率が連邦（全国）レベルで上昇したことが，州レベルの支持率にも影響したことが考えられる（これも，他の多くの諸州でも見られる現象になっている）。一方で緑の党はこれまでのところ，コロナウイルス問題について目立った動きを取ることができていない。この問題は今後，連邦レベルだけではなく，州レベルの政治や選挙にも大きな影響を及ぼすであろう。

(2) 緑黒（キウイ）連立－バーデン＝ヴュルテンベルク州（2016年－現在）

州の政治史，CDU の長期政権（1953－2011年）から赤緑連立（2011－2016年）へ

まず，バーデン＝ヴュルテンベルク州では戦後長らくの間 CDU が非常に強く，1953年から，2011年３月27日に実施された州議会選挙までの60年間，一貫して第一党として政権を掌握し続けていた。しかし，選挙の約２週間前に起きた福島第一原発事故を受けて州内では原発閉鎖を主張する意見が急激に強まり，緑の党への期待が高まったため，選挙では同党が大勝利を収めた。各政党の得票率は以下のとおり。CDU：39%（前回：44.2%），SPD：23.1%（25.2%），FDP：5.3%（10.7%），緑の党：24.2%（11.7%），左翼党：2.8%（3.1%）。獲得議席数は以下のとおり。CDU：60（前回：69），SPD：35（38），FDP：７（15），緑の党：36（17），左翼党：０（0），総議席数：138。CDU は第一党の地位を保ったが，選挙前まで連立を組んでいた FDP との合計議席数（67）は過半数（70）に達せず，第二党に躍進した緑の党と SPD の連立（71）が政権を獲得，緑の党が州首相のポストを獲得した。60年に及んだ CDU による統治を終了させた点で，バーデン＝ヴュルテンベルク州の政治史において革命的な出来事であっただけではなく，初めて緑の党が州首相のポストを獲得した点で，ドイツの政治史においても画期的な出来事となった。なお，赤緑連立はそれまでにもあったが，緑の党が SPD よりも多数となった赤緑連立は，バーデ

ン＝ヴュルテンベルク州のものが初めてである[12)]。

以上の変化をもたらすために中心的な役割を果たし，緑の党の政治家として史上初めて州首相に就任したクレッチュマン（Winfried Kretschmann）の人気は高く，首相としての手腕も評価され，政権与党として機能できることを示した緑の党は高い支持率を維持した。一方でSPDは緑の党の陰に隠れて目立たず，支持率は伸び悩んだ。また，バーデン＝ヴュルテンベルク州でも2015年秋から深刻化し始めた難民問題のためにAfDが支持率を伸ばし始めたが，同党が連邦レベルでも攻撃対象としたCDU，SPDの支持率は州内でも大きく低下し始めた。バーデン＝ヴュルテンベルク州のCDUは以前から党内保守派とリベラル派の対立に悩まされ続けていたが，難民問題への対応をめぐって党内での対立が深まったことも印象を悪くした[13)]。

2016年州議会選挙，緑黒（キウイ）連立の成立

前回の選挙に続いて緑の党が大勝利を収め，史上初めて州レベルで第一党となった。ただし，SPDが大敗したため赤緑連立（66）は過半数（72）に達せず，政権を維持できなくなった。いずれの政党もAfDとの連立を否定したため，過半数に達し得る連立の組み合わせは以下の三つとなった。（1）緑の党とCDU，（2）CDU，SPDとFDP，（3）SPD，FDPと緑の党（信号連立）。（2）の連立は，それぞれの政党のシンボルカラーがドイツ国旗で用いられている3色と同じことから「ドイツ連立」とも呼ばれる[14)]。

CDU内の保守派は，同党が主導権を握れるドイツ連立を望んだが，SPDが拒否した。FDPは緑の党との連立を嫌ったため，信号連立も成立し得なかった（上記のとおり，両党の連立は基本的には難しい）。したがって，過半数を上回る連立は緑の党が主導権を握る，CDUとの連立のみとなった。CDU内ではとくに保守派の間で緑の党との連立に難色を示す意見があったものの，州支部代表でリベラル寄りのシュトローブル（Thomas Strobl）は緑の党との連立を目指し，交渉が始まった。クレッチュマンは現実主義的な立場を取っており，CDUとの連立にも異存はなかった（連立の成立後は

自身の経験をふまえ，連邦レベルでも黒緑連立を目指すべきと積極的に主張し始めるようにもなった）。緑の党は前政権の教育政策の継続を認めさせた一方，CDU は警察の強化を認めさせることができた。経済・財政政策については両党の間で立場の大きな違いはなく，州政府の債務抑制やデジタル・インフラへの予算支出増大等について合意した。以上のような交渉の成果に基づき，両党は連立協定に調印，クレッチュマンを首相とする緑黒連立政権が成立することとなった[15)]。

ところが，州議会において首相を選出するための投票において与党の６名がクレッチュマンに投票しなかった（緑の党と CDU の合計議席数は89だが，クレッチュマンへの賛成票は82にとどまった（緑の党の１名が病欠））。投票前に CDU 内部では，クレッチュマンに投票しないという立場を表明していた数名の議員がいたように，造反したのは CDU 内の保守派の議員であったと考えられている。バーデン＝ヴュルテンベルク州の CDU はヘッセン州の CDU よりも保守性が強く，緑黒連立は波乱含みのスタートとなった[16)]。

緑黒連立（2016年－現在）の現況，各政党の支持率の変遷

任期５年間の前半，２年半の間は概してうまくいっていたという評価が一般的である。警察の強化，債務抑制，インフラ整備のための支出増加等で成果があったとも評価されている。しかし，任期の後半に入ってから様々な問題で両党の立場の違いが目立つようになっており，とくにディーゼル車両禁止問題については，禁止に積極的な緑の党と，消極的な CDU の間で対立が強まっている。また，緑の党の教育政策を受け入れることに CDU は難色を示している。ただし，従来から立場の違いがあった警察の強化，難民問題でそれぞれが譲歩し合って一定の合意に達したように（2020年３月），協調関係も依然として維持されている。そして，次回の州議会選挙（2021年３月14日に実施予定）が近付いているが，コロナ危機については緊密な協調関係を保って対処する方針を示し，総額約140億ユーロの補正

表11：世論調査，バーデン＝ヴュルテンベルク州における各政党の支持率の変遷（2016－2020年）

実施機関	結果の公表日（年/月/日）	C	S	F	G	L	A	他
州議会選挙（16/3/13）での得票率		27	12.7	8.3	30.3	2.9	15.1	3.7
Infratest dimap	17/3/9	28	20	7	27	4	11	3
Forsa	18/2/25	27	12	9	32	4	12	4
Forsa	19/2/4	23	9	9	33	6	13	7
Infratest dimap	20/3/12	23	11	7	36	5	14	5
INSA	20/4/22	31	13	7	29	4	11	5
Infratest dimap	20/10/15	29	11	6	34	4	11	5

出典：<https://www.wahlrecht.de/umfragen/landtage/baden-wuerttemberg.htm>に基づいて筆者が作成。（最終閲覧日：2020年10月25日）

予算の成立を目指している（2020年９月以降）。巨額の補正予算は緑の党にとってもCDUにとっても選挙ではプラスに作用することが考えられる。次回の州議会選挙にも首相候補として臨むことになるクレッチュマンは，コロナ危機を通じて両党の関係が強まったことをアピールしている[17)]。

表11が示すように緑の党が30％台の高い支持率を概ね維持しているだけではなく，CDUも20％台の支持率を維持している。2020年の３月から４月にかけてCDUの支持率が大幅に上昇した理由としては，上記のとおり新型コロナウイルス問題へのCDUを中心とする連邦政府の対策が高く評価されて，CDUの支持率が連邦（全国）レベルで上昇したことが，州レベルの支持率にも影響したことが考えられる[18)]。

(3)　ジャマイカ連立－シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州（2017年－現在）

2017年州議会選挙，ジャマイカ連立の成立

シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州では2012年に実施された州議会選

挙の結果，SPD と緑の党，および「南シュレースヴィヒ選挙人同盟（SSW）」の 3 党による連立政権が成立し，SPD のアルビッヒ（Torsten Albig）が首相に就任した（SSW はデンマーク系住民を代表する地域政党である）。政権運営は概ね順調で，第一党の SPD は2017年 5 月 7 日に実施された州議会選挙の約 3 週間前までは30％を超える支持率を維持していた。ところが，4 月の下旬，アルビッヒの雑誌インタビュー記事での発言が強く批判され，SPD の支持率が低下する代わりに CDU の支持率が上昇，逆転し，選挙の結果，各政党の獲得議席数（および得票率）は以下のとおりとなった。CDU：25（32％），SPD：21（27.2％），緑の党：10（12.9％），FDP：9（11.5％），AfD：5（5.9％），SSW：3（3.3％），左翼党：0（3.8％），総議席数：73[19]。

CDU にとっては思わぬ幸運（敵失）による勝利であり，同党の首相候補でありながら，あまり注目を集めていなかったギュンター（Daniel Günther）については「突然の勝者」「ミスター・無名」の勝利などとも報道された。過半数を上回る連立の組み合わせとしては（1）大連立の他に，（2）CDU と FDP，緑の党によるジャマイカ連立，また，（3）SPD と FDP，緑の党による信号連立も可能であった。シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州では CDU が保守性を強める一方で SPD が左派色を強めていたために大連立は困難で，両党とも乗り気ではなかった。ただし，ギュンター自身は選挙戦中に同性婚を認める立場を示したように中道寄りで，ジャマイカ連立の形成を呼びかけた。また，選挙での勝利で自身の影響力を強めてもいた。そして，シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州の FDP と緑の党は，他の諸州および連邦レベルの両党と比べても柔軟かつプラグマティックで，ジャマイカも信号も排除しない立場を示した（他の諸州や連邦レベルでは両党の対立が激しいため，一般的にジャマイカも信号も困難とされている）。ただし，FDP にとっては，第一党の CDU ではなく第二党の SPD との連立の方が自らの立場をより有利にできるため，ジャマイカよりも信号の方が望ましかったが，信号では，SPD の選挙での敗因となり，したがって政権

運営に支障をきたすであろうアルビッヒの存在が足かせとなる。FDPはアルビッヒが第一線の立場から身を退くことを望んだが，拒まれたために信号連立を目指す交渉は停滞した。一方でジャマイカを目指す交渉も，FDPと緑の党の対立のために難航したものの，ギュンターの仲介が功を奏して合意が成立した。交渉では風力発電施設の増設およびアウトバーン（A20）の延伸が主な争点となったが，まず，風力発電施設の増設については，（施設の騒音問題のため）施設と住宅地との距離も重要な争点になる。距離が短いほど増設は容易で，長いほど難しくなる。増設を求める緑の党がより短い距離を主張したのに対し，CDUとFDPはより長い距離を主張したが，後者の立場が優先された。また，アウトバーン（A20）の延伸を求めるCDUとFDPの立場を緑の党が認めた。これらの諸問題についてはCDUとFDPの立場が優先されたが，難民問題等では緑の党の立場も認められた。また，FDPと緑の党が主張する大麻合法化（州政府の管理に基づく合法化）に，慎重なCDUが同意したように，総じて各党の特色を打ち出せる合意を形成することができた[20)]。

なお，ジャマイカ連立は以前に，ザールラント州において2009年11月から2011年１月までの時期に成立し，存続していたことがあったが，FDPの内紛が主な原因となって連立が解消し，５年の任期を全うできていなかった。これが，州レベルで成立した最初のジャマイカ連立であり，シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州で成立したものは二つ目となる。ジャマイカ連立は2017年に実施された連邦議会選挙の後，連邦レベルでも真剣に模索されたように，とくにCDUにとってその重要性が高まっている。何故なら，AfDの躍進を受けて支持率（選挙での得票率）を低下させているCDU（およびCSU）にとっては，FDPとの連立で過半数を上回ることが難しくなっているため，不足分を補うために緑の党も連立に加える必要性が高まっているからである（大連立を選択しない限り）。とくに，メルケルのもとで中道寄りになった連邦レベルのCDUにとっては，緑の党との連立はそれほど難しくはなく，むしろ魅力的な選択肢の一つともなっていた。し

かし，概して連邦レベルでも州レベルでも，新自由主義路線を強めているFDPと緑の党の対立が激しくなっているため，一般的にジャマイカ連立は困難とされており，連邦レベルでも成立し得なかった。それでも，ジャマイカはCDUにとって今後の重要な選択肢の一つと見なされているため，シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州で，州レベルで成立した二つ目のジャマイカ連立は注目を集めることになった[21)]。

これまでの成果と評価，各政党の支持率の変遷

本稿を脱稿した時点でまだ任期の途中であり，具体的に目立った成果を挙げているようには見受けられない。連立形成を目指す交渉で争点となったが妥協が成立していた，風力発電施設の増設もアウトバーン（A20）の延伸もあまり進まず，大麻合法化についてギュンター政権は，これを棚上げする立場を示した。合法化のためには連邦レベルでの法改正が必要であり，シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州は連邦参議院で改正を訴えたが実現し得なかった。そのように，現在のところ目立った具体的成果は乏しいものの，各党が協力し合いながらジャマイカ連立を存続させていること，そのためにギュンターが指導力を発揮していることは一般的に高く評価されている。ザールラント州で最初に成立していたジャマイカ連立よりも長く存続しており，連立を危うくするような深刻な対立も起きていない。野党からの激しい攻撃にも持ちこたえている。例えば，アウトバーンに速度制限を設定することにCDUとFDPは反対，緑の党とSPDは賛成しているが，SPDの主張に緑の党は賛同せず，与党としてCDU，FDPと足並みをそろえている。ただし，ニカブ（イスラム教徒の女性が着用する，全身を覆い隠す衣服）着用禁止の合法化についてはジャマイカ連立内で立場の大きな違いが生じたことがあった。CDUとFDPが合法化を主張する一方，緑の党が（信教の自由の観点から）反対していたが，結局，緑の党が譲歩し，合法化が実現することになった。そのように，緑の党が連立を維持するために現実的な立場を取る一方で，ギュンターが基本姿勢としては中道

表12：世論調査，シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州における各政党の支持率の変遷（2017－2020年）

実施機関	結果の公表日（年/月/日）	C	S	F	G	L	A	他
州議会選挙（17/5/7）での得票率		32	27.2	11.5	12.9	3.8	5.9	6.8
Infratest dimap	18/4/20	34	22	8	18	6	6	6
INSA	19/2/8	30	20	9	22	5	7	7
INSA	20/1/8	28	20	9	26	3	7	7
NDR	20/4/28	34	22	8	18	6	6	6

出 典：<https://www.wahlrecht.de/umfragen/landtage/schleswig-holstein.htm> および <https://de.statista.com/statistik/daten/studie/28330/umfrage/sonntagsfrage-zur-landtagswahl-in-schleswig-holstein/#professional> に基づいて筆者が作成。（最終閲覧日：2020年10月25日）

寄りの方針を保っていることでバランスが保たれてもいる。ギュンターは５年の任期を全うし，2022年に実施される予定の州議会選挙を経た後，ジャマイカ連立を存続させる意欲を示している[22)]。

表12が示すようにFDPが支持率を若干，低下させたもののCDUと緑の党が高い支持率を維持しているため，ジャマイカ連立は全体として概ね高く評価されており，次回の選挙後も存続できる可能性は十分にある。ただし，信号連立が過半数を上回る可能性もあり，SPDは次回の選挙の後，信号連立の形成を目指す方針を示している。上記のとおりギュンターはジャマイカの存続を目指し，FDPも存続を目指しているが，緑の党は立場を明確に示していない。そのため，次回の選挙でジャマイカ連立が勝利しても存続するとは限らず，緑の党が鍵を握る可能性も考えられる[23)]。

(4)　ケニア連立－ザクセン＝アンハルト州（2016年－現在）

2016年州議会選挙，ケニア連立の成立

ザクセン＝アンハルト州では2011年に実施された州議会選挙の結果，第

一党のCDUと第三党のSPDによる連立政権が成立し，CDUのハーゼロフ（Reiner Haseloff）が首相に就任した（なお，SPDは左翼党に抜かれて第三党に転落していたため，CDUとの連立を，厳密には，「大連立」とは呼び難くなっていた。以下，CDUとSPDの連立を「黒赤連立」と表記する）。2015年秋から深刻化し始めた難民問題のために，連邦レベルだけではなく多くの州でも一般的な傾向として，CDUおよびSPDの支持率が低下する一方でAfDの支持率が上昇したが，この傾向は旧東独地域でとくに強く，難民の受け入れに寛容なメルケル率いるCDUへの不満が強まり，AfDへの支持率が急激に高まったのである。以上の諸問題に対処するために，ハーゼロフが2015年末からメルケルの難民政策に批判的な立場を取り，移民の受け入れ上限を主張するようになったことが，ザクセン＝アンハルト州におけるCDUの支持率低下に歯止めをかけ，2016年3月13日に実施された州議会選挙における，CDUの損失を抑制することに大きく役立つことになった。その一方で，SPDは目立った動きを取れなかったことから支持率は低下するばかりであった。選挙の結果，各政党の獲得議席数は以下のとおり。CDU：30（前回：41），AfD：25（初参戦），左翼党：16（29），SPD：11（26），緑の党：5（9），FDP：0（0），総議席数：87（105）[24]。

黒赤連立（総議席数：41）が過半数（44）を下回ったため，上回るためには緑の党を加えてケニア連立（46）を形成する必要があった。ただし，CDUとAfD，もしくはCDUと左翼党の連立でも過半数を上回るが，CDUはいずれの連立も拒否した。選挙の前までは赤赤緑連立の可能性も考えられてはいたが，SPDの惨敗で過半数に達することはできなかった。したがって，唯一，可能な連立はケニア連立のみとなった。ハーゼロフは選挙後，直ちにケニア連立の形成を呼びかけたが，SPDも緑の党も「責任」を強調して賛成した。すなわち，AfDの躍進のために唯一，可能な選択肢となったケニア連立は，AfDによる政治の不安定化に共同で対処するための防波堤としての性質を有したため，州政治の安定化という大同のために団結しようとしたのである[25]。

しかし，ハーゼロフの選挙戦中の上記の言動から察せられるとおり，また，ザクセン＝アンハルト州のCDU内ではAfDとの連立を主張する勢力が少なからず存在するように，同州のCDUは全16州のCDU（およびCSU）の中でも，右傾化とAfDへの接近が最も進んでいる，州レベルのCDUの一つになっている。AfDが勢力を急激に強めているという同州の事情がそのような傾向を促している。同州のCDUは，これまで連立を維持していたSPDとは一定の良好な関係を維持できていたものの，右傾化のため，新たに連立に参加することになった緑の党に対しては，他の諸州のCDUと比べても強い敵意と不信感を抱いていた。ザクセン＝アンハルト州のCDU，SPD，緑の党の，それぞれの党大会においてケニア連立への賛否を問う投票が行われた結果，賛成票の割合はそれぞれ83.6，94，98.4％となったが，CDU内で少なからぬ割合の反対意見が表明された理由は，とくに緑の党との連立への不満が高まっていたからであった。さらに，州首相を選出するための州議会における一回目の投票では，首相候補のハーゼロフへの賛成票が41にとどまって過半数に達せず，ケニア連立（総議席数46）から5名の造反者が出たが，いずれも，緑の党との連立に反対したCDUの議員であったと考えられている。ハーゼロフは2回目の投票で首相に選出されたが，史上初のケニア連立は当初から波乱含みで，その後も，とくにCDUと緑の党の対立から紛争が頻発し，解体の危機を経験することにもなった。そのような不安定で危うい体質が，史上初のケニア連立の最も際立った特徴の一つになっている。ただし，多くの紛争や危機にもかかわらず結局は存続できていることも，重要な特徴の一つになっていると言える[26]。

これまでの経緯－紛争の頻発と連立解体の危機

以下，ケニア連立が経験した主な紛争や危機について説明する。

（1）2017年8月，AfDが「左翼過激主義」について調査するための州議会における委員会の設置を主張したが，同党が敵と見なすあらゆる団体を攻撃するためにこの委員会が利用されることへの危惧から多くの市民や団

体，そしてSPDと緑の党が反対した。ところが，CDUの一部の議員が賛成して委員会の設置が決定された。ただし，設置はAfDの賛成だけでも可能であったが，CDUの一部議員はこれ見よがしに賛成の立場を示したのである[27)]。

（2）この委員会におけるAfDの活動を，緑の党のシュトリーゲル（Sebastian Striegel）が厳しく批判したことへの報復としてAfDは2017年12月，シュトリーゲルが委員を務める，州議会の，憲法擁護庁を監督する委員会（Parlamentarischen Kontrollkommission für den Verfassungsschutz）からの除名を求める動議を提出した。この動議は採択されなかったが，ケニア連立の全議員が一致して反対した訳ではなく，11名が動議に反対せず，AfDに同調する立場を示した。反対しなかったのはCDUの議員であったことは間違いないと考えられている。また，内相でCDUの州支部副代表という要職にあったシュタールクネヒト（Holger Stahlknecht）が，「左翼過激主義」に関する委員会におけるAfDの活動に理解を示す立場を取ったたことは，一部の議員だけではなくCDUが全体としてAfDに近付いている印象も与えた。以上の一連の出来事を受けて緑の党の内部では不満が高まり，2018年初めに開催された，州支部の特別党大会では連立からの脱退を主張する意見もみられるようになった[28)]。

（3）2018年3月から5月の時期にかけて起きた出来事である。州のデータ保護監察官（Landesbeauftragter für den Datenschutz）の任期満了を受けて後任の候補に緑の党のレオポルト（Nils Leopold）が選ばれたが，就任には州議会での（出席者の）三分の二以上の賛成が必要であった。ケニア連立だけでは足りないが，左翼党が賛成する立場を示したためにレオポルトが選出される見通しが立ったものの，今回も造反者が出て選出が阻まれてしまった。今回も，緑の党を強く嫌うCDUの一部議員であったことは確実であると考えられている。上記の事例（2）では，シュトリーゲルの除名は阻まれたため緑の党に実害は生じなかったものの，今回の事例では実害が生じてしまった。また，重要な人事の失敗は連立政権の機能不全も印

象付けた。緑の党の州支部代表フランケ＝ラングマッハ（Christian Franke-Langmach）はCDUへの抗議の意思を込めて支部代表を辞任した[29]。

（4）2019年11月22日，ハーゼロフと，CDUの州支部代表に昇格していたシュタールクネヒトは突如，内務次官（すなわちシュタールクネヒトの直属の部下）に，ドイツ警察労働組合（Deutsche Polizeigewerkschaft）のトップ，ヴェント（Rainer Wendt）を登用することを発表した。ヴェントはベストセラーとなった著書『危機にあるドイツ（*Deutschland in Gefahr*）』などでドイツにおける犯罪の増加，とくに外国人による犯罪の危険性を声高に喧伝して国家権力の強化を主張する等，強硬な右派的言動で知られた人物であった。また，長年におよび給与を二重に，不正に取得していた問題からも物議を醸す人物であった。そのため多くの反対意見が表明され，SPDも緑の党も反対した。ハーゼロフとシュタールクネヒトはヴェントの登用について，SPDと緑の党とは事前に協議しておらず，ヴェントはしばしば緑の党を攻撃する立場を示してもいた。反対を受けてヴェントの登用は見送られることになったが，CDUは緑の党との関係をさらに悪化させただけではなく，SPDとの関係も悪化させてしまった[30]。

（5）ヴェントをめぐる以上の出来事の直後，2019年12月，アンハルト＝ビッターフェルト地区における，CDUの地区執行部のメンバー，メーリッツ（Robert Möritz）がかつて極右団体の活動に参加し，現在でも，極右団体との関連が強く疑われる団体に所属し，そして，極右活動家に共通して見られるタトゥーを身に付けていることが発覚した。しかし，地区執行部はメーリッツを除名せず，州のCDUもそのような方針を擁護するような立場を示した。これに対し，緑の党は以下のように怒りを露わにした。「CDUにはどれほどの数のハーケンクロイツがあるのか」。これに対してはCDUの多くのメンバーも激怒し，州支部の事務総長シュルツェ（Sven Schulze）は緑の党に謝罪を要求，謝罪がなければ連立の存続が危うくなると警告し，シュタールクネヒトも同調した（ハーゼロフは問題への関与を避け続けた）。緑の党は謝罪せず，SPDは緑の党に味方し，支部代表のリ

シュカ（Burkhard Lischka）は，CDU は連立の存続もしくは右傾化のどちらかを選択せよと迫った。ケニア連立は最大の危機を迎えたが，メーリッツが自らの意思で CDU を脱退することで問題は一応，解決される形を取った[31)]。

各政党の支持率の変遷

多くの紛争や危機にもかかわらず，ケニア連立は現在に至るまで持ちこたえている。これらの紛争や危機は，CDU が右傾化し，AfD との提携も辞さない勢力が党内で影響力を強め，緑の党に対して攻撃的になっていることから生じている。しかし，緑の党が CDU への怒りに任せて連立から脱退することを自制し，我慢し続けていることが，連立の存続を可能とさせている最も重要な一因になっていると考えられている。上記のとおりケニア連立は現在，ザクセン＝アンハルト州で唯一，可能な連立となっているため，もし解体すれば政治の不安定化に拍車がかかり，CDU が多数派を形成するため AfD にさらに近付く可能性も危惧されている。そのような事態を防ぐための防波堤としてケニア連立は重視されているため，もし緑の党が（CDU への怒りから）脱退すれば，連立解体と，州政治の不安定化の責任を厳しく問われるため，これを防ぐためにも緑の党は耐え忍び続ける必要があったのである[32)]。

表13が示すように緑の党の支持率上昇，また，コロナ危機による CDU の支持率上昇という，他の諸州でも見られる現象がザクセン＝アンハルト州でも見られるが，ケニア連立を構成する 3 党全体の支持率は概して伸び悩んでおり，2021年に実施される州議会選挙の後も過半数を上回ることができるかどうか，予断を許さない状況にある。もし上回ることができたとしても，とくに CDU と緑の党の関係が悪化しているため，連立の存続についても楽観を許さない状況にある。しかし，ケニア連立以外で過半数を上回る連立を形成することは非常に難しい。以上のような諸事情のため，州議会選挙後の混乱も予想される。

表13：世論調査，ザクセン＝アンハルト州における各政党の支持率の変遷（2016－2020年）

実施機関	結果の公表日（年/月/日）	C	S	F	G	L	A	他
州議会選挙（2016/3/13）での得票率		29.8	10.6	4.9	5.2	16.3	24.3	9.0
Infratest Dimap	2017/6/22	40	13	5	6	20	13	3
CONOSCOPE	2018/5/22	35	16	6	5	20	15	3
INSA	2020/3/20	25	11	4	11	18	25	6
GMS	2020/7/29	33	12	4	10	16	19	6

出典：<https://www.wahlrecht.de/umfragen/landtage/sachsen-anhalt.htm> に基づいて筆者が作成。（最終閲覧日：2020年10月25日）

(5)　赤赤緑連立－テューリンゲン州（2014年－現在）

2014年州議会選挙，CDUの長期政権（1990－2014年）から赤赤緑連立へ

旧東独５州の一つであるテューリンゲン州では東西ドイツの統一後，1990年から2014年の州議会選挙までは一貫してCDUが首班政党として政権を握り続けていた。2009年に実施された州議会選挙の結果，成立したCDUとSPDの連立政権は当初，概ね順調であったが任期の後半からスキャンダルが頻発したことによって支持率が低迷し，2014年の州議会選挙の後も過半数を維持できるとは限らない状況に陥っていた（なお，テューリンゲン州では（ザクセン＝アンハルト州と同じく）SPDは左翼党に抜かれて第三党に転落していたため，CDUとの連立を厳密には「大連立」とは呼び難くなっていた。以下，CDUとSPDの連立を「黒赤連立」と表記する）。選挙（９月14日）の直前に実施された世論調査（９月11日，ZDFが実施）によると左翼党，SPD，緑の党の３党による赤赤緑連立も過半数を超えることが可能な状況であった。この調査によると各政党の支持率は以下のとおり。CDU：36％，左翼党：26％，SPD：16％，AfD：８％，緑の党：5.5％[33]。

左翼党は旧東独の５州では少なからず有力で，とくにテューリンゲン州

では1999年に実施された州議会選挙の結果，SPDを抜いて第二党に躍進し，その後も支持率と選挙での得票率を伸ばし続けていた。もし，赤赤緑連立政権が成立すれば史上初となるが，左翼党が首班政党となる州政府，そして，左翼党の州首相も史上初となる。そのため，同党の首相候補ラメロウ（Bodo Ramelow）が一躍脚光を浴びることになった。ただし，2014年の選挙の結果，黒赤連立もしくは赤赤緑連立のどちらになるかを決定できたのは，どちらにするかを選択できたSPDであった。CDUは黒赤連立の維持を望んだがテューリンゲン州の同党内では保守性が強まるなど，存続を難しくさせる諸問題があった一方，SPDは赤赤緑の可能性を排除しない立場を示していた[34)]。

以上のような状況で実施された州議会選挙の結果は以下のとおり。まず，各政党の得票率は，CDU：33.5%（前回：31.2%），左翼党：28.2%（27.4%），SPD：12.4%（18.5%），緑の党：5.7%（6.2%），AfD：10.6%（初参戦），FDP：2.5%（7.6%）。獲得議席数は以下のとおり。CDU：34（前回：30），左翼党：28（27），SPD：12（18），緑の党：6（6），AfD：11，FDP：0（7），総議席数：91。

黒赤連立（合計議席数：46）もしくは赤赤緑連立（46）ならば過半数（46）に辛うじて達することができた。CDUはSPDに連立の維持を呼びかけただけではなく，安定多数を確保するため緑の党にも連立への参加を呼びかけた。しかし，緑の党は20年以上に及ぶCDUによる長期政権の打破と変革を主張し，赤赤緑連立の形成を呼びかけた。鍵を握ったのは上記のとおりSPDであったが，黒赤，赤赤緑のいずれであってもジュニアパートナーにとどまるため，赤赤緑についても必ずしも積極的ではなかったものの，最終的には同意した。こうして，史上初の赤赤緑連立政権，そして，史上初の，左翼党を首班とする州政府，左翼党の州首相が誕生することになった[35)]。

しかし，左翼党については，旧東独を一党独裁体制で支配していた社会主義統一党（SED）の後継政党としてのイメージが強かったため，同党の

政治家が州首相となる政府が誕生することに対しては州内だけではなく，全国的にも不安が強まった。州都エアフルトでは数千人規模のデモが起き，メルケルをはじめCDUの，連邦レベルの有力政治家たちが懸念を表明しただけではなく，政治的中立性を求められる連邦大統領のガウク（Joachim Gauck）でさえ懸念を表明する異例の事態にもなった。ZDFが全国の有権者を対象に実施した世論調査（10月21－23日）によると，ラメロウの首相就任は良いと回答した人々の割合は29％にとどまり，良くないと回答した人々は40％であった（ただし，旧東独地域に限定すればそれぞれ46，25％であった）。以上のような懸念を解消するために赤赤緑の三党は連立協定の前文で，旧東独が「不正な国家（Unrechtsstaat）」であったことを認めて過去を反省する姿勢をアピールし，州首相となるラメロウ自身も，SEDの一党独裁体制の下で苦しめられた人々に謝罪する立場を示した[36)]。

以上のように全国レベルで批判を受けながら成立し，波乱含みのスタートとなった赤赤緑連立については，これまで前例がない特殊な試みであったことからも，５年の任期を全うすることも難しいのではないかという予測もなされていた[37)]。

赤赤緑連立政権（2014年12月－2019年10月）の成果と評価，各政党の支持率の変遷

まず，一般的に，５年の任期を全うできたことが評価されており，左翼党について当初抱かれていたような不安を解消し，政権担当能力を示したことも評価され，ラメロウの人気も高まった。赤赤緑の三党の間では様々な諸問題をめぐって立場の違いがあったものの，目立った対立に発展することはほとんどなく，連立が危機に陥るようなこともなかった。総じて，「シュピーゲル」は「実験成功」と評価した（オンライン版，2019年10月26日）。ただし，具体的な諸成果については可もなく不可もなくという評価が一般的である。まず，CDUによる長期政権のもとで莫大な額の財政赤字が累積していたことがテューリンゲン州における最大の問題の一つとされて

いたが，ラメロウ政権は様々な積極策で財政支出を増大させたにもかかわらず，５年間で債務を約10億ユーロ削減することに成功した。これが，一般的に最大の成果として評価されている。左翼党は積極財政による所得再配分を最も重要な党是の一つとしているため，同党が政権を握ったことによって財政がさらに悪化することが少なからず危惧されてもいたからこそ，債務削減は意外な成果として評価されてもいる。ただし，債務削減は専ら，全国レベルの好況で財政収入が増大したことによるものであるため，州政府の政策による成果として認め得るか否かについては，やや微妙なところがある。債務削減のために連立政権は，州の行政区画を整理・縮小することを最重要目標の一つとしていたが，CDU の反対で実現することはできなかった[38)]。

失業率（5.1％）は旧東独地域で最も低く，全国平均をごくわずかに上回る水準にとどまった。ただし，失業率が相対的に低い水準にとどまった，主な理由は人口減少と少子高齢化で生産年齢人口が減少しているからに過ぎず，これらが（財政悪化とともに）テューリンゲン州における最も深刻な諸問題になっている。同州の人口は2013年から2018年にかけて約20％減少し，他の，より豊かな諸州への人口流出が続いている。連立政権はこれらの諸問題に対処するために有効な諸政策やビジョンを提示することはできなかった。ただし，教員と警察官の増員に成功したことは一般的に評価されている[39)]。

以上のように，具体的な諸成果については可もなく不可もなくという評価が一般的であるが，新たな「実験」であったにもかかわらず大過なく政権を運営できたことが，とくに左翼党について評価された。ただし，左翼党は首班政党になったことによって，既存の体制と諸政党への不満と反対を糾合する政党としての地位を AfD に奪われ，そして AfD が（2015年秋以降の難民問題で）躍進したことを受けて，表14が示すように支持率を低下させていた。それでも，2019年の州議会選挙の前までには支持率を30％に近付く水準にまで回復させた。一方で SPD と緑の党は左翼党とラメロウの

表14：世論調査，テューリンゲン州における各政党の支持率の変遷（2016－2020年）

実施機関	結果の公表日（年/月/日）	C	S	F	G	L	A	他
州議会選挙（14/9/14）での得票率		33.5	12.4	2.5	5.7	28.2	10	4
Infratest dimap	15/9/17	35	13		7	27	9	9
Infratest dimap	16/11/22	32	12	3	6	23	21	3
INSA	17/10/23	31	13	7	4	20	20	5
INSA	18/11/9	23	12	6	12	22	22	3
INSA	19/10/24	24	9	5	8	28	24	2
州議会選挙（19/10/27）での得票率		21.7	8.2	5	5.2	31	23.4	5.1
Forsa	20/2/7	12	9	4	7	37	24	7
Infratest dimap	20/8/6	24	10	4	6	32	20	4

出典：<https://www.wahlrecht.de/umfragen/landtage/thueringen.htm> に基づいて筆者が作成。（最終閲覧日：2020年10月25日）

蔭に隠れて目立たず，とくにSPDが支持率を低下させたために，選挙の後，赤赤緑連立が過半数を上回ることは難しくなることが予測されていた。

2019年州議会選挙，全国レベルの政治危機，赤赤緑暫定政権の成立（約1年間限定）

2019年10月27日に実施された州議会選挙の結果は以下のとおり。まず，各政党の得票率は，CDU：21.8%（前回：33.5%），左翼党：31%（28.2%），SPD：8.2%（12.4%），緑の党：5.2%（5.7%），AfD：23.4%（10.6%），FDP：5％（2.5%）。獲得議席数は以下のとおり。CDU：21（前回：34），左翼党：29（28），SPD：8（12），緑の党：5（6），AfD：22（11），FDP：5（0），総議席数：90。AfD躍進のあおりを受けたCDUの大敗によって，左翼党は史上初めて州議会選挙で第一党となった。

しかし，赤赤緑連立の合計議席数（42）は過半数（46）に達することができず，そのためには最低でももう一党，連立に加える必要があったが，

AfD との連立はあり得ず，CDU あるいは FDP のいずれかを連立に加える必要があった。しかし，テューリンゲン州の CDU の内部では左翼党を SED の後継政党として忌避する態度が根強く，ラメロウ政権の 1 期目から政権，とくに左翼党への対決姿勢を強め，選挙後も左翼党との連立を拒否する立場を明確に示した。FDP は赤赤緑連立を倒すことを最重要目標としていたため，赤赤緑連立が，もう一党を連立に加えて過半数を上回ることはできなかった。CDU は代案として，CDU と SPD，FDP，緑の 4 党による「ジンバブエ連立」を呼びかけたが，この組み合わせでも合計議席数（39）は過半数に達せず，SPD が反対したために実現できなかった。CDU と FDP，AfD の連立（48）ならば過半数を上回るが，CDU は2019年 6 月，AfD とのあらゆる関係を禁止する決定を下しており，テューリンゲン州の CDU も AfD との連立を明確に否定した。総じて，形成可能な連立は赤赤緑だけとなった。3 党は連立の維持について合意し，少数政権となる 2 期目のラメロウ政権を，CDU あるいは FDP の閣外協力に基づいて運営しようとしたが，両党から同意を得られないまま2020年 2 月 5 日，州議会において首相を選出するための投票が実施されることになった[40]。

テューリンゲン州憲法の規定によると首相を選出するためには総議員（90）の半数以上の賛成が必要で，一回目の投票でいずれの候補もこの条件を満たさない場合，二回目の投票を実施するが，二回目でも一回目と同じく半数以上の賛成が必要である。二回目でも選出できなかった場合，三回目の投票では半数以上の賛成がなくても，最も多くの票を集めた候補者が首相に選出される。赤赤緑連立は過半数を下回っているため，ラメロウは一，二回目の投票で首相に選出されることができず，三回目の投票まで実施されることは確実視されていた。ラメロウの他に，AfD もキンダーファーター（Christoph Kindervater）を独自の首相候補として擁立し，FDP も三回目の投票ではケメリッヒ（Thomas Kemmerich）を独自の候補として擁立する方針を示していたが，CDU は独自の候補を擁立しなかった。一回目の投票では，ラメロウ43票，キンダーファーター25票，棄権22票，二回目

ではそれぞれ44，24，22票という結果に終わった。キンダーファーターにはAfDの全議員（22）が投票したが，第三回目の投票でケメリッヒにFDPとCDUの全議員（26）が投票しても赤赤緑の総議員数（42）には及ばないため，ラメロウが首相に選出される，はずであった。ところが，第三回目の投票でAfDはキンダーファーターではなくケメリッヒに投票したため，ラメロウ44，ケメリッヒ45，棄権1という結果に終わり，FDPとCDU，そして，AfDの賛成に基づいてケメリッヒが首相に選出されてしまった[41)]。

赤赤緑だけではなくFDPとCDUもAfDに騙され，意図せざる結果ではあったが，FDPとCDUが州首相の選出という非常に重要な問題でAfDと協力する形になってしまったことは確かであった。そのため，この出来事は全国レベルで非常に強い衝撃を与え，ケメリッヒとFDP，そしてCDUへの批判も急激に強まった。ケメリッヒが直ちに首相辞任を表明しただけではなく（2月6日），以前から指導力不足を問題視されるようになっていたクランプ＝カレンバウアーにとってはこの出来事が決定打となり，党首辞任を表明する事態にまで発展した（2月10日）。事態を収拾するためにテューリンゲン州では赤赤緑とCDUが協議した結果，以下の合意に達することができた（2月22日）。まず，首相選出のための投票を改めて実施し，CDUはラメロウの選出に協力する。これによって成立する新政権に対してCDUは野党として，約1年の期間限定で一定の協力関係を結ぶことで，少数政権の安定した運営と維持に貢献する。その見返りに，政権側はCDUの要望に応じる。そして，2021年度予算を成立させた後，2021年4月25日に州議会選挙を実施する。以上の合意に基づいてラメロウが首相に選出され（3月4日），二期目の赤赤緑連立政権は少数政権として約1年間は存続できることになった[42)]。

前出の表14が示すように2月の危機の直後ではCDUが支持率を急落させていたが，その後，持ち直して20％台の支持率を維持している。左翼党は30％以上の支持率を維持しているが，1期目と同じくSPDと緑の党の支持率が伸び悩んでいるため，2021年4月に実施される州議会選挙で赤赤緑

連立が過半数を上回ることができるかどうか，予断を許さない状況が続いている。２月の危機への反省から，AfD 以外のいずれの政党も今後はより慎重に振る舞うとしても，もし赤赤緑が過半数を上回ることができなければ，その他に過半数を上回る連立を形成することは非常に困難なため，政治状況がまたも不安定化することは避けられず，2021年の連邦議会選挙をはじめ，連邦レベルでも様々な影響を与えるかもしれない。今後もテューリンゲン州の政治状況と選挙は非常に重要になると考えられる。

(6) 信号連立－ラインラント＝プファルツ州（2016年－現在）

州の政治史：CDU の長期政権（1947－1991年）から SPD の長期政権（1991年－現在）へ，2011年州議会選挙

ラインラント＝プファルツ州では1947年に実施された州議会選挙から1987年の選挙までは CDU が一貫して第一党の地位を維持していたが，1991年の選挙からは SPD が逆転して第一党の地位を維持し，現在に至っている。CDU と SPD が突出して強く，FDP あるいは緑の党の州議会選挙での得票率は一部の例外を除き，一桁台にとどまり，左翼党は議席を獲得できたことさえない。隣接するバーデン＝ヴュルテンベルク，ヘッセン州では緑の党が勢力を強めているが，この二つの州に比べてラインラント＝プファルツ州では，緑の党への支持率が高い大学都市の数も少ない。しかし，2011年３月27日に実施された州議会選挙では，直前に起きた福島第一原発事故の影響で緑の党への支持率が急激に高まり，選挙での得票率が初めて二桁台に達し（15.4％），SPD と連立を形成して赤緑政権が成立した[43)]。

2016年州議会選挙，信号連立が成立

しかし，世界的に有名な自動車レースが開催されるニュルブルクリンク・サーキットを運営する会社が破産，この会社を州政府が所有していたため，州が巨額の債務を負担することになったことから首相ベック（Kurt

Beck）の支持率が急落し，政党支持率でもCDUがSPDを上回るようになった。しかし，2013年2月にベックの後任として首相に就任したドライヤー（Malu Dreyer）は刷新を目指し，物腰の柔らかな政治スタイルなどによって（自身も女性であることから）女性を中心に人気を高めた。また，2015年秋から深刻化し始めた難民問題を受けてラインラント＝プファルツ州でもAfDの支持率が上昇する一方でCDUの支持率が低下，SPDと伯仲するまでになった。同州ではメルケルの難民政策を支持する意見が概ね有力で，ドライヤーも支持していたが，CDUの首相候補クレックナー（Julia Klöckner）がメルケルの難民政策から距離を取ったことが，2016年3月13日に実施された州議会選挙でのCDUの敗北を導いた，最後の重大な一因になったと考えられている。選挙で主な争点となったのは難民問題であり，緑の党が得意とする環境・エネルギー等の諸問題は（2011年の選挙とは異なり）重要な争点とはならず，女性の首相候補どうしの対決として注目を集めたドライヤーとクレックナーの蔭に隠れて緑の党の首相候補は（同じく女性であったが）目立たなかった，また，上記のとおりそもそもラインラント＝プファルツ州における緑の党の支持基盤はそれほど強くはなかった[44]。

選挙の結果，各政党の獲得議席数は以下のとおり。SPD：39（前回：42），CDU：35（41），緑の党：6（18），FDP：7（0），左翼党：0（0），AfD：14（初参戦），総議席数：101（101）。AfDの躍進に圧迫されてCDUだけではなくSPDも議席数を減らし，緑の党が議席数を大幅に減らしたため，赤緑連立が過半数を下回り，不足分を補って過半数を上回るためにはFDPを加えて信号連立を形成する必要があった。ただし，大連立でも過半数を上回るが，SPDとCDUの激しい競合関係のために実現可能性は低く，ドライヤーは選挙の直後，信号連立の形成を目指す立場を示し，緑の党も賛同した。なお，緑の党とFDPがともに連立に参加する，連立のパターンとしては信号連立の他に，上記のとおりシュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州において成立したジャマイカ連立がある。ジャマイカ連立では，緑の

党とFDPの他にCDUが加わり，信号連立では，緑の党とFDPの他にSPDが加わるという違いがあるが，いずれであっても，緑の党と，新自由主義路線を強めるFDPとの対立関係が厳しくなっているため，ジャマイカも信号も形成することは基本的には難しい。シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州においてジャマイカ連立を目指した交渉（2017年）では，両党の対立関係を克服することが重要な課題になったのと同じように，ラインラント＝プファルツ州において信号連立を目指した交渉（2016年）でも，両党の対立関係を克服することが最も重要な課題となった[45)]。

とくに，風力発電施設の増設と，道路等のインフラ増設が争点となり，緑の党は前者に積極的，後者に消極的であったが，FDPは前者に消極的，後者に積極的であった。風力発電施設の増設については，上記のとおり（施設の騒音問題のため）施設と住宅地との距離も重要な争点になる。距離が短いほど増設は容易で，長いほど難しくなる。選挙の前までは，赤緑政権は増設に積極的であったため，相対的に短い距離（原則として800メートル）を認める方針を保っていたが，FDPは距離を長く取ること（原則として1,000メートル，大規模施設の場合は1,100メートル）を要求した。以上の諸問題については，総じてFDPの立場が認められた。すなわち，風力発電施設の増設という基本目標については合意が形成されたものの，距離についてはFDPの立場が認められ，インフラ増設についてもFDPの立場が認められた。そもそも，選挙の結果，緑の党が議席数を大きく減らした一方でFDPが（0から）大きく増やしており，また，SPD，緑の党が政権を維持するためにはFDPの参加が不可欠であったため，連立交渉ではFDPが有利な立場にあった。信号連立の形成を可能にした，他の諸要因としては以下のものが指摘されている。第一に，1991年から2006年までの長期間におよんでSPDとFDPは連立政権を維持していたが，そのときに築かれていた両党間の人脈と信頼関係が2016年になっても維持されていたこと。第二に，議席ゼロから復活したFDPにとっては，今後の生存のためには政権入りで自らの存在をアピールする必要性が高くなっていた一方，議席数

を大幅に減らした緑の党にとっても同様の理由から政権入りが重要であったため，両党とも，そもそもまずは政権を成立させる必要があった。そのためには，信号連立しか選択肢がなかったのである。これらの諸理由は，信号連立の成立だけではなく維持にも役立つことが期待されていた[46)]。

これまでの成果と評価，各政党の支持率の変遷

まず，５年間の任期の前半を終えた時点での一般的な評価は以下のとおり。大きな成果はないが失敗もなく，信号連立は摩擦なく運営できており，そのためにドライヤーをはじめ３党のトップが協調して指導力を発揮していることを評価できる。もちろん立場の違いはあるが，連立を形成するいずれの党も他の党を批判することは控える，言わば「不可侵条約」が守られているような状態である[47)]。

ただし，表15が示すようにSPDの支持率が低下する一方で緑の党の支持率が上昇するという，連邦レベルで生じている現象がラインラント＝プファルツ州でも顕著に見られるようになっている。2020年４月以降はCDUの支持率が上昇しているが，その理由としては上記のとおり，連邦レベル

表15：世論調査，ラインラント＝プファルツ州における各政党の支持率の変遷（2016－2020年）

実施機関	結果の公表日（年/月/日）	C	S	F	G	L	A	他
州議会選挙（16/3/13）での得票率		31.8	36.2	6.2	5.3	2.8	12.6	5.0
Infratest dimap	17/3/9	35	40	6	6	3	7	3
Infratest dimap	18/3/8	33	37	7	8	3	8	4
Infratest dimap	19/3/21	31	24	10	14	6	11	4
Infratest dimap	20/3/5	27	26	7	18	6	11	5
Infratest dimap	20/9/10	34	26	6	17	4	9	4

出典：<https://www.wahlrecht.de/umfragen/landtage/rheinland-pfalz.htm> に基づいて筆者が作成。（最終閲覧日：2020年10月25日）

での同党のコロナ対策が評価され，支持率上昇をもたらしたことが州レベルでの支持率上昇にも寄与していることが考えられる。SPD の支持率低下を，緑の党の支持率上昇が補うことによって，信号連立全体の支持率は2019年の秋ごろまではかろうじて50％を上回っていたが，その後，下回っている。ドライヤーは2021年に実施される州議会選挙の後も信号連立を存続させる意思を示しているが，現在の状況ではやや難しくなっている。現況では大連立の他，黒緑連立でも過半数を上回る可能性が生じている。また，FDP 内の保守的な一派は信号連立の解消と CDU への接近を主張するようにもなっている[48)]。

総じて，信号連立は大きな問題もなく運営できているが，とくに SPD の不振のため2021年に実施される州議会選挙の後も存続できるとは限らない状況になっている。

(7)　その他の諸州

ケニア連立はブランデンブルクおよびザクセン州でも，両州で2019年 9 月 1 日に実施された州議会選挙の結果を受けて成立し，ケニア連立が政権を運営している州の数は合計で三つになっている。赤赤緑連立はベルリンでも2016年 9 月18日に実施された市議会選挙の結果を受けて成立し，ブレーメンでも2019年 5 月26日に実施された市議会選挙の結果を受けて成立した。赤赤緑連立が政権を運営している州の数は合計で三つになっている。以下，各州（都市州含む）の状況について概要を説明する。

まず，ベルリンでは2011年に実施された市議会選挙の結果，第一党となった SPD が第二党の CDU と大連立を形成していたが，2016年に実施された市議会選挙では AfD 躍進のあおりを受け，SPD と CDU はともに史上最低の得票率を記録する歴史的大敗を喫した。SPD と CDU はそれぞれ第一党，第二党の座を保ったが両党の連立では過半数を上回ることができなくなったため，ベルリンに関しても，この両党はもはや「国民政党」とは呼び難くなっている。過半数を上回るためには緑の党を加えてケニア連立

を形成する必要があったが，緑の党はCDUとの連立を拒否し，赤赤緑連立が形成されることになった。ベルリンでは2002年から2011年までSPDと左翼党が連立（赤赤連立）を形成していたが，そのときに築かれていた人脈と経験が赤赤緑連立の形成に役立つことになった。左翼党が首班政党となったテューリンゲン州の赤赤緑連立とは異なり，ベルリンでは史上初の，SPDを首班政党とする赤赤緑連立が成立することになった[49)]。

しかし，テューリンゲン州とは異なりベルリンの赤赤緑連立はうまくいっておらず，政党間の立場の違いや対立が目立ち，市長のミュラー（Michael Müller）は指導力を発揮できていない。最大の課題の一つとなっている，高騰を続ける家賃の規制に関しては一定の成果があったものの，2020年9月，緑の党が主導し，市議会で採択された環境保護法制にミュラーが突然，拒否権を行使したことから連立内での対立が一層，先鋭化したため，最悪の場合，2021年に実施される次回の市議会選挙の前までに連立が解体する可能性が危惧されるようにもなっている。ベルリンでもSPDの支持率低下には歯止めがかからず，支持率において緑の党およびCDUがSPDを上回る状況が続いている。ミュラーによる拒否権行使は，連立のパートナーであるはずの緑の党を警戒せざるを得なくなっている，そのような状況への焦りから，緑の党に得点を与えることを防ぐためのものであったと考えられる[50)]。

総じて，ベルリンにおける赤赤緑連立は解体はしていない点で，失敗に終わっているとまでは言えないが，うまくいっているとも言い難く，2021年の市議会選挙の後も存続できるとは限らない状況になっている。

次に，ブレーメンではまず，1946年から2019年5月26日に実施された市議会選挙まで一貫してSPDが第一党として政権を握り続けていたが，この選挙で初めて第一党の座をCDUに奪われる歴史的惨敗を喫した。同日に実施された欧州議会選挙でもSPDが大敗を喫したが，これらの責任を取って（連邦レベルの）SPD党首ナーレス（Andrea Maria Nahles）が就任から約1年で辞任を表明する事態になった。これらの惨敗は，SPDが2017年の

連邦議会選挙で同党史上最低の得票率を記録したことに続き，同党の凋落に歯止めがかからないことを強く印象付けている。ブレーメン市議会選挙での惨敗が一因となってナーレスが党首を辞任したため，連邦レベルにおいてSPDだけではなく大連立政権をも動揺させたことは，州レベルにおける政治の不安定化が全国（連邦）レベルの政治も不安定化させる現象の一つになっている（同様の現象として上記のとおり，バイエルン，ヘッセン州議会選挙（2018年10月）におけるCDU/CSUの大敗の責任を取ってメルケルが党首を辞任し，テューリンゲン州における政治危機（2020年２月）の責任を取ってクランプ＝カレンバウアーも党首辞任を表明した）[51]。

ブレーメンでは2015年に実施された市議会選挙の結果を受けて，SPD（第一党）と緑の党（第三党）による赤緑連立が形成されていたが，2019年選挙におけるSPDの惨敗（第二党に転落）によって過半数を下回ったため，これを補うために左翼党（第四党）が加わって赤赤緑連立が形成された。ジャマイカ連立でも過半数を上回ることは可能であったが，緑の党（第三党）はCDU（第一党）あるいはFDP（第五党）との連立を拒否し，赤赤緑連立を選択した。ベルリンに続きSPDが首班政党となる二つ目の赤赤緑連立であり，旧西独地域では初の赤赤緑連立である。成立から１年以上が経ったが目立った問題はなく，コロナ対策のために有効に機能し，市長のボーフェンシュルテ（Andreas Bovenschulte）が指導力を発揮したことが評価されている[52]。

ブランデンブルク州では，まず，2009年に実施された州議会選挙の後から2019年の州議会選挙まで，SPDと左翼党の連立（赤赤連立）が維持されていたが，2019年の選挙ではAfDが躍進した一方でSPDと左翼党がともに議席数を減らしたため，赤赤連立は過半数を下回った。緑の党を加えた赤赤緑連立（総議席数45）ならば辛うじて過半数（45）に達するが，ケニア連立（50）ならばより安定した多数派を形成することができた。緑の党は赤赤緑連立を望んだが，SPDはケニア連立を選択した。イデオロギーや政策上の親和性よりも数的な安定性を重視した選択であると言えるが，両

者の間で選択を迫られる状況は今後，他の諸州や連邦レベルでも生じるかもしれず，その点で，ブランデンブルク州において始まった実験は重要な教訓を与えるかもしれない[53)]。

ザクセン州では，まず，2014年に実施された州議会選挙の後，CDU（第一党）とSPD（第三党）による連立政権（黒赤連立）が形成されていたが，2019年の選挙では他の諸州と同じくAfDが躍進し（第二党に），CDU（第一党）とSPD（第五党に転落）が議席数を大きく減らしたために黒赤連立は過半数を下回った。CDUは，やはり他の諸州と同じくAfDあるいは左翼党（第三党）との連立を拒んだため，過半数を上回ることができる唯一の連立は，既存の黒赤連立に緑の党を加える，ケニア連立のみとなった。すなわち，ザクセン＝アンハルト州と非常に良く似た状況のためにケニア連立が成立したが，ザクセン州でも同じように困難な展開になるのか，あるいはより良い展開になるのか，ケニア連立の今後のためにも重要な実験になるであろう[54)]。

お　わ　り　に

まず，本稿のテーマについて改めて確認しておきたい。政党数の増加とAfDの躍進による政治の不安定化という，現在のドイツにとって最も重要で，最も深刻になっている問題の一つである。この問題について州レベルで最も顕著に見られる，最も重要な現象の一つが連立の多様化である。そのような多様化の傾向は2014年にヘッセン州で黒緑連立，テューリンゲン州で赤赤緑連立が誕生したことから始まり，そして，2015年秋に難民問題が深刻化したことを受けて，AfDが躍進し始めたことが多様化の傾向に拍車をかけることになった。2016年3月13日にバーデン＝ヴュルテンベルク，ラインラント＝プファルツ，ザクセン＝アンハルトの3州で州議会選挙が同時に実施された結果，それぞれの州で緑黒（キウイ），信号，ケニアという三つの新たな連立が一挙に誕生した。この年にはベルリンでも赤赤緑連立が誕生した。2017年にはシュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州でジャマ

イカ連立が誕生し，2018年には５年の任期を全うできたヘッセン州における黒緑連立の存続が決まり，2019年にはブレーメンで赤赤緑連立が誕生，ブランデンブルクおよびザクセン州でケニア連立が誕生した。

現在，11の州で新たなタイプの連立が政権を運営しており，従来型の連立が維持されている州の数は五つに過ぎなくなっている。2014年以降のドイツ政治は州レベルにおいて明らかに，これまでとは全く異なる新たな局面に入っており，新たな時代が始まっている。11の州で新たな政治的実験が進められており，新たなタイプの様々な連立については機能できるかどうか，また，機能するための前提として，そもそも存続できるかどうかが試されている。少なくとも現在までのところ，解体という形で失敗に終わっている連立がないことは一つの大きな成果であると言えるかもしれないが，いずれの連立もそれぞれに固有の諸問題を抱えている。ただし，それらの諸問題は，より一般的な教訓や示唆を与えてもいる。

まず，ヘッセン州の黒緑連立はこれまでのところ概してうまくいっているものの，これを成立させて，存続させるためにCDUが緑の党の立場に近付いたことが保守層の離反，CDUの支持率低下を招いたと考えられているように，そのような形で黒緑連立を存続させるためにはCDUが対価を払わねばならないという問題があることを示している。バーデン＝ヴュルテンベルク州の緑黒（キウイ）連立では現在，環境問題（ディーゼル車両禁止問題）をめぐって両党の対立が深まっているように，やはり，この問題をめぐっては協力が難しく，対立が起き易いことを示している。シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州のジャマイカ連立はうまくいっているが，その基本的な理由の一つとして，緑の党が現実的な立場を取り，CDU，FDPの立場に同調することが多いことが考えられる。また，州首相のギュンターが連立を維持するためにリーダーシップを発揮し，自身が中道寄りの立場を示していることも重要であると考えられる。すなわち，概して，緑の党もCDUも歩み寄ろうとし合っていることが，上手くいっている理由の一つであると考えられる。

これに対し，ザクセン＝アンハルト州ではCDUと緑の党の対立が激化している。何故ならCDUが右傾化してAfDに近付き，緑の党への攻撃を強めているからである。これに緑の党は耐え忍び続けていたが，2019年12月，CDUの党員（メーリッツ）の極右団体との繋がりに関する問題について緑の党がCDUを厳しく批判したことが連立解体の危機をもたらした。以上のように，CDUと緑の党とのイデオロギー上の距離はザクセン＝アンハルト州において，ヘッセン，バーデン＝ヴュルテンベルク，シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州における以上に大きくかけ離れており，この距離が大き過ぎると連立は維持し難くなることを，ザクセン＝アンハルト州の実験が示している。

テューリンゲン州で成立した史上初の赤赤緑連立（1期目）は，5年の任期を全うできた先例を作っただけでも重要な成果を挙げたと言えるが，AfDの躍進に歯止めをかけることができず，1期目の成果を問う2019年の州議会選挙では過半数を下回り，AfDによって全国レベルに波及する重大な政治危機が起きるまでになった。そのように，テューリンゲン州をはじめとする旧東独地域でとくに勢力を強めているAfDの存在が，とくにこの地域において政治を大きく不安定化させる深刻な問題になっている。

ザクセン州でもCDUはAfDあるいは左翼党との連立を拒否したため，2019年に実施された州議会選挙の結果，過半数を上回ることができる連立は（ザクセン＝アンハルト州と同じく）ケニア連立のみとなった。ただし，ブランデンブルク州ではケニア連立の他に赤赤緑連立でも過半数を上回ることが可能であったように，左翼党が一定の勢力を保っている旧東独地域では，AfDの躍進に対抗するための連立としてはケニアの他，赤赤緑という選択肢が生じる可能性は今後もあるかもしれない。しかし，ベルリンの赤赤緑連立はうまくいっておらず，とくにSPDが，自らを上回って勢力を強めている緑の党への警戒を強めて関係が悪化しているため，次回の選挙後も存続できるとは限らない状況になっている。そもそも，赤赤緑という新たな3党連立の形態が生じるようになった根本的な原因の一つは，SPD

が勢力を大幅に弱めてしまったからであり，凋落に歯止めがかからないSPDが今後，赤赤緑連立に参加することがあるとしても生き残りのため，連立のパートナーをも警戒せねばならなくなる事態がこれからも生じることが考えられる。ただし，ブレーメンの赤赤緑連立もそのような事情から誕生したものの，少なくとも現在までのところはうまく機能している。

以上，本稿は政党数の増加とAfDの躍進によるドイツ政治の不安定化という現在進行中で，今後も長く続くであろう問題の途中経過を州レベルに限定して報告しているに過ぎないが，最後に簡単ながら今後の展開について考察しておきたい。まず，2021年には連邦議会選挙が実施されるだけではなく，以下の六つの州において州議会選挙が実施される。すなわち，バーデン＝ヴュルテンベルク（３月14日に実施予定（以下同）），ラインラント＝プファルツ（３月14日），テューリンゲン（４月25日），ザクセン＝アンハルト（６月６日），ベルリン（秋），メクレンブルク＝フォアポンメルン（秋）。秋に実施される連邦議会選挙の前に少なくとも四つの州議会選挙が実施される予定であり，それらが連邦議会選挙にも大きな影響を及ぼす可能性がある。

現在，連邦レベルでは各種世論調査によると支持率において緑の党がSPDを上回って第二党になっており，第一党のCDUとの連立で過半数を上回る見通しが立っているが，CDUとSPDの連立では過半数を上回るとは限らない状況になっている。そして，CDUの次期党首に選出される可能性が高いと考えられている，メルツ（Friedrich Merz）やラシェット（Armin Laschet）等の有力政治家達も選挙後は黒緑連立を目指す立場を明らかにしているため，黒緑連立が連邦レベルで成立する可能性が高まっている[55)]。また，緑の党は連邦レベルだけではなく（旧東独地域の５州を除く）多くの州で勢力を強めているため，今後，黒緑連立はドイツ政治の全体にとって重要になると考えられる。

そして，黒緑連立は全く突飛な試みではなく，本稿で見たとり州レベルでは既にヘッセン，バーデン＝ヴュルテンベルク州で試みられている。ま

た，CDUと緑の党との二党連立の他に，もう一つの政党を加えた三党連立として，ジャマイカ連立はシュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州で，ケニア連立はザクセン＝アンハルト，ブランデンブルク，ザクセン州で試みられており，これらも加えると，CDUと緑の党の連立は既に六つの州で試みられていることになる（任期を全うできずに終了した，ハンブルクの黒緑連立（2008－2010年）も加えると，全部で七つ）。これらのうち，まず，ヘッセン州では5年の任期を全うできた点で重要な先例を作ったと言える。ただし，同州では緑の党に近付き過ぎたことがCDUの支持率低下をもたらしたことは，連邦レベルでも重要な教訓になるであろう。連邦議会選挙の前にはバーデン＝ヴュルテンベルク州で州議会選挙が実施されるが，現在のところ，各種世論調査によると同州の緑黒連立は安定多数を確保できる見通しが立っている。ただし，上記のとおりディーゼル車両禁止問題等をめぐって対立が深まっているため，選挙後も連立を確実に存続させることができるとは限らず，もし，連立が解消すれば連邦議会選挙と，その後の連立形成にも少なからぬ影響を及ぼすかもしれない。逆に，存続させることができれば連邦レベルで黒緑連立を成立させるための追い風になるであろう。上記のとおり，州首相のクレッチュマンは連邦レベルでも黒緑連立を成立させるべきという立場を取っているため，そのための追い風となるためにも，2021年の州議会選挙の後，緑黒連立の存続のために尽力すると考えられる。

しかし，バーデン＝ヴュルテンベルク州（3月14日）以上に，テューリンゲン（4月25日）およびザクセン＝アンハルト（6月6日）における州議会選挙が，連邦議会選挙に悪影響を及ぼしかねない，州レベルの選挙としてとくに重要になると考えられる。テューリンゲン州では2020年2月に，CDUの（連邦レベルの）党首が責任を取って辞任する事態にまで至った政治危機が起きたばかりであるため，2021年の州議会選挙では，連邦議会選挙のためにも，州レベルでもCDUは非常に慎重に振る舞うことが要求されるであろう。ただし，同州の政治状況は依然として不安定なままである。

すなわち，赤赤緑連立が選挙で過半数を上回るとは限らない状況になっており，もし，上回ることができないまま，現況の赤赤緑連立による少数政権を存続させても，政権運営の安定化のためには，やはり，現況の CDU による閣外協力を存続させる必要が生じることになる。これを拒めば CDU への批判が強まる可能性がある。赤赤緑連立が難しいため，他の連立を目指すとしても，CDU（現在，第三党）は AfD（第二党）あるいは左翼党（第一党）との連立を拒み，第四党以下の諸政党（SPD，緑の党，FDP）の勢力が弱いため，赤赤緑連立以外で過半数を上回る連立を形成することは非常に難しい状況のままである。総じて，赤赤緑連立が過半数を上回ることができなければ，どのような展開になっても CDU は難しい対応を迫られるであろう。テューリンゲン州で政治が安定化するための最良の展開は，赤赤緑連立が過半数を上回ることであると考えられるが，同州の困難な政治状況を考えると，これが CDU にとってもむしろ，対応が最も容易な展開になるかもしれない。

そして，ザクセン＝アンハルト州では2019年12月にケニア連立解体の危機が生じたほどに CDU と緑の党の関係が悪化しており，2021年 6 月 6 日に実施される予定の州議会選挙の後の存続については楽観を許さない状況になっている。しかし，それ以外の連立を目指すとしても，テューリンゲン州と同様に，CDU（現在，第一党）は AfD（第二党）あるいは左翼党（第三党）との連立を拒み，第四党以下の諸政党（SPD，緑の党，FDP）の勢力が弱いため，ケニア連立以外で，過半数を上回る連立を形成することは非常に難しい状況のままである。連邦議会選挙に注意すると，CDU にとって選挙前の最大の懸念材料の一つは，ザクセン＝アンハルト州における州議会選挙の結果，同州において CDU が AfD と何らかの協力関係を結ぶこと（AfD の閣外協力に基づく，CDU の少数単独政権の成立等）であると考えられるが，同州の CDU は全16州の CDU（および CSU）の中でも右傾化と AfD への接近が最も進んでいる，州レベルの CDU の一つになっているため，そのような事態が生じる可能性は完全には排除できないと考え

られる。連邦議会選挙のためにも，ザクセン＝アンハルト州においてもCDUは非常に慎重に振る舞うことが要求されるであろう。最良の展開は，ケニア連立が過半数を確保して存続することであると考えられる。

総じて，政党数の増加とAfDの躍進によるドイツ政治の不安定化という問題に対処するために今後，連邦レベルでも多くの州でも黒緑連立（２党連立，もしくは，もう１党を加えた３党連立（ケニア，もしくはジャマイカ連立））が重要な選択肢の一つになると考えられる。ただし，緑の党が弱く，AfDが強く，左翼党が一定の勢力を保っている旧東独地域の５州ではAfDに対抗するためケニア，あるいは赤赤緑連立が重要になっている。そして，2021年に連邦レベルで黒緑連立を成立させて政治を安定化させるためには，その前にテューリンゲン，ザクセン＝アンハルトという多大な不安定要因を抱えた二つの州における選挙を大過なくやり過ごすという難題をクリアする必要性も高いと考えられる。

そのように，ドイツの政治は従来と比べて州レベルにおいても難しくなっているが，それはドイツ一国だけの問題にとどまらない。ドイツはヨーロッパ（EU）の最重要国であり，国際社会でも重要な地位を占めているため，同国の国内政治の不安定化はヨーロッパや国際社会の全体にも悪影響を及ぼしかねない。そして，国内政治の不安定化は，州レベルの政治の不安定化にも深く根ざしている問題であるため，国際関係の観点からも重要なドイツの国内政治に関しては今後，州レベルも含めて注視し続けねばならない。

注

1）“Pizza-Connection Die schwarz-grüne Geburtsrunde,” *Der Spiegel*, 7.03.2008, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/pizza-connection-die-schwarz-gruene-geburtsrunde-a-540701.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Hamburg: GAL beendet schwarz-grüne Koalition,” *Der Spiegel*, 28.11.2010, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/hamburg-gal-beendet-schwarz-gruene-koalition-a-731577.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。黒緑連立に関する研究として，Volker

Kronenberg (hrsg.), *Schwarz-Grün: Erfahrungen und Perspektiven*, Springer, 2016.

2） Thorsten Faas, "Die hessische Landtagswahl vom 22. September 2013: Schwarz-grüne „hessische Verhältnisse"," *Zeitschrift für Parlamentsfragen*, Vol. 45, No. 2 (2014), S. 349−365.

3） Volker Kronenberg, *Neue Wege gehen: Schwarz-Grün in Hessen-Erwartungen – Erfahrungen – Ergebnisse*, Konrad-Adenauer-Stiftung, 2018, S. 25.

4） *Ibid.*, S. 25−27; "Landtagswahl in Hessen: Bouffier macht den Grünen Avancen," *Der Spiegel*, 26.7.2013, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/landtagswahl-hessen-ministerpraesident-bouffier-umwirbt-die-gruenen-a-913040.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

5） "Einmütig bei Bildung, Schuldenbremse und Flughafen," *Süddeutsche Zeitung*, 18.12.2013, <https://www.sueddeutsche.de/politik/schwarz-gruener-koalitionsvertrag-in-hessen-einmuetig-bei-bildung-schuldenbremse-und-flughafen-1.1846403>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

6） *Ibid.*

7） "Bilanz von Schwarz-Grün in Hessen: Lautlose regieren mit Geräuscharmen," *taz.de*, 24.1.2018, <https://taz.de/Bilanz-von-Schwarz-Gruen-in-Hessen/!5479891/>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Schwarz-Grün in Hessen: Ein Loblied auf Hessen," *Frankfurter Allgemeine Zeitung* (*FAZ*), 17.9.2018, <https://www.faz.net/aktuell/politik/inland/bilanz-der-schwarz-gruenen-hessischen-landesregierung-15789835.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Landtagswahl in Hessen - Schwarz-Grün: Eine insgesamt positive Bilanz," *ZDFheute*, 23.10.2018, <https://www.zdf.de/nachrichten/heute/vor-landtagswahl-in-hessen-bilanz-schwarz-gruen-100.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

8） 参照した資料は注7とすべて同じ。

9） "Bilanz von Schwarz-Grün in Hessen: Lautlose regieren mit Geräuscharmen," *taz.de*, 24.1.2018, <https://taz.de/Bilanz-von-Schwarz-Gruen-in-Hessen/!5479891/>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Schwarz-Grün in Hessen So erfolgreich - und am Ende abgewählt?" *ntv*, 24.10.2018, <https://www.n-tv.de/politik/So-erfolgreich-und-am-Ende-abgewaehlt-article20684821.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Wahlanalyse: Warum Hessen so gewählt hat," *ZDFheute*, 29.10.2018, <https://www.zdf.de/nachrichten/heute/blitzanalyse-hessen-wahl-100.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。なお，AfD はヘッセン州議会選挙の前までに実施されていた15の州の，全ての州議会選挙で議席獲得に成功していたが，ヘッセン州議会選挙でも議席獲得に成功したことによって，全16州の議会で議席を有することになった。

10） "Hessen: FDP für Jamaika: Bouffier nicht abgeneigt," *Welt*, 19.10.2018, <https://www.welt.de/regionales/hessen/article182382136/FDP-fuer-Jamaika-Bouffier-nicht-abgeneigt.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Endergebnis der Hessen-Wahl 2018 Es reicht für Schwarz-Grün – bitteres Finale für die SPD," *Der*

Tagesspeigel, 29.10.2018, <https://www.tagesspiegel.de/politik/endergebnis-der-hessen-wahl-2018-es-reicht-fuer-schwarz-gruen-bitteres-finale-fuer-die-spd/23239864.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Ersatzrad” ergibt keinen Sinn Hessen-FDP stellt sich gegen Jamaika,“ *ntv*, 29.10.2018, <https://www.n-tv.de/politik/Hessen-FDP-stellt-sich-gegen-Jamaika-article20693738.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; ”Nach endgültigem Wahlergebnis: “Keine Koalition unter Grünen-Führung”: Hessischer FDP-Fraktionschef erteilt Ampel eine Absage,” *HNA*, 16.11.2016, <https://www.hna.de/politik/hessen-wahl-fdp-fraktionschef-rock-will-keine-ampel-10613538.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

11）“Warum es für Schwarz-Grün 2.0 jetzt schwerer wird,” hessenschau.de, 16.1.2020, <https://www.hessenschau.de/politik/warum-es-fuer-schwarz-gruen-20-jetzt-schwerer-wird,koalition-hessen-zwischenbilanz-102.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

12）“Wahl in Baden-Württemberg: Merkels Atomwende wird zur Schicksalsfrage im Ländle,” *Der Spiegel,* 27.3.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/wahl-in-baden-wuerttemberg-merkels-atomwende-wird-zur-schicksalsfrage-im-laendle-a-753419.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Landtagswahl in Baden-Württemberg Grün-Rot schafft Sensation in Baden-Württemberg,” *Der Spiegel, 27.3.2016*, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/wahl-in-baden-wuerttemberg-merkels-atomwende-wird-zur-schicksalsfrage-im-laendle-a-753419.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

13）Oscar W. Gabriel und Bernhard Kornelius, “Die baden-württembergische Landtagswahl vom 13. März 2016: Es grünt so grün,” *Zeitschrift für Parlamentsfragen,* Vol. 47, No. 3（2016）, S. 498–502.

14）*Ibid*., S. 502–504, 512.

15）*Ibid*., S. 513–514; “Bundestagswahl 2017: Kretschmann plädiert für Schwarz-Grün im Bund,” *Der Spiegel*, 26.8.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/winfried-kretschmann-fuer-schwarz-gruen-geheimtreffen-im-kanzleramt-a-1109581.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

16）“Kretschmanns Wahl: Liebesentzug schon in Stunde null,” *Der Spiegel*, 12.5.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/winfried-kretschmanns-wahl-liebesentzug-schon-in-stunde-null-a-1092014.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

17）“Koalition in Baden-Württemberg: Warum Grün-Schwarz in Stuttgart funktioniert – und anderswo nicht,” *FAZ*, 28.9.2018, <https://www.faz.net/aktuell/politik/inland/warum-schwarz-gruen-in-baden-wuerttemberg-funktioniert-15796457.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Halbzeitbilanz im Südwesten: Grün-Schwarz: Mehr Härte gegen straffällige Flüchtlinge,” *Stuttgarter Nachrichten*, 5.11.2018, <https://www.stuttgarter-nachrichten.de/inhalt.halbzeitbilanz-im-suedwesten-gruen-

schwarz-mehr-haerte-gegen-straffaellige-fluechtlinge.52d5b272-bc69-4870-bd84-24b379adcd12.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Landesregierung in Stuttgart: Bei Grün-Schwarz wird der Ton rauer,” 15.2.2019, <https://www.stuttgarter-nachrichten.de/inhalt.landesregierung-in-stuttgart-bei-gruen-schwarz-wird-der-ton-rauer.7437e731-3ddd-4e0a-9624-c58939f75de1.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Landesregierung: Jenseits von Grün-Schwarz,” *swp.de*, 9.3.2020, <https://www.swp.de/politik/inland/landesregierung-baden-wuerttemberg-gruen-schwarz-beschliesst-neues-polizeigesetz-44448356.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Diesel mit Euro 5 in Stuttgart: Fahrverbot spaltet Grüne und CDU,” *Stuttgarter Zeitung*, 28.5.2020, <https://www.stuttgarter-zeitung.de/inhalt.diesel-mit-euro-5-in-stuttgart-koalition-im-krisenmodus-fahrverbot-spaltet-gruene-und-cdu.0528f0ed-013a-4791-a74b-a28a4dcf9239.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Umfrage-HöhenflugHabeck auf Kanzlerkurs? Baden-Württemberg zeigt, was sich bei grüner Regierung ändert,” *Focus*, 6.6.2019, <https://www.focus.de/politik/deutschland/umfrage-hoehenflug-habeck-auf-kanzlerkurs-baden-wuerttemberg-zeigt-was-sich-bei-gruener-regierung-aendert_id_10800905.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Kretschmann: Krise schweißt Grün-Schwarz zusammen,” *Badische Neueste Nachrichten*, 17.8.2020, <https://bnn.de/nachrichten/baden-wuerttemberg/kretschmann-krise-schweisst-gruen-schwarz-zusammen>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Baden-Württemberg: Die Baustellen der grün-schwarzen Landesregierung,” *Rhein-Neckar-Zeitung*, 18.9.2020, <https://www.rnz.de/politik/suedwest_artikel,-baden-wuerttemberg-die-baustellen-der-gruen-schwarzen-landesregierung-_arid,551475.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Koalition bekämpft Krise mit Rekordschulden,” *STIMME.de*, 23.9.2020, <https://www.stimme.de/suedwesten/nachrichten/pl/gruenen-fraktionschef-wahlkampf-machen-wir-nach-der-fasnet;art19070,4395869>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

18） “Umfrage in Baden-Württemberg: CDU überholt die Grünen in der Wählergunst,” *Stuttgarter Nachrichten*, 22.4.2020, <https://www.stuttgarter-nachrichten.de/inhalt.umfrage-in-baden-wuerttemberg-cdu-ueberholt-die-gruenen-in-der-waehlergunst.bc3954a6-2e44-4fdb-a7f8-964a1e8b3a20.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

19） アルビッヒはインタビューで，前妻が主婦業に専念していたことが離婚の原因であったと述べたが，主婦をはじめ女性を軽視する発言と受けとめられた。“Albig im “Bunte”-Interview: Eine（vielleicht）verhängnisvolle Homestory,” *Der Spiegel*, 8.5.2017, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/schleswig-holstein-stolpertetorsten-albig-ueber-ein-bunte-interview-a-1146643.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州の政治に関する研究として，Wilhelm Knelangen, Friedhelm Boyken（hrsg.）, *Politik und Regieren in Schleswig-Holstein: Grundlagen - politisches System - Politikfelder und Probleme*, Springer, 2019.

20） “Schleswig-Holstein: SPD verliert, CDU gewinnt: Der Ministerpräsident, dem eine

Hausfrau und Mutter als Ehefrau zu wenig war, und der verlor," *manager magazine*, 7.5.2017, <https://www.manager-magazin.de/politik/deutschland/schleswig-holstein-spd-verliert-cdu-gewinnt-a-1146518.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "CDU-Aufsteiger Daniel Günther:Plötzlich Sieger," *Der Spiegel*, 7.5.2020, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/wahl-in-schleswig-holstein-daniel-guenther-triumphiert-ueber-torsten-albig-a-1146524.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Wahl in Schleswig-Holstein: Mister Unbekannt stürzt die SPD," *Stuttgarter Zeitung*, 7.5.2017, <https://www.stuttgarter-zeitung.de/inhalt.wahl-in-schleswig-holstein-mister-unbekannt-stuerzt-die-spd.5eecedf6-b28f-46d9-9d2b-65b9c83d4383.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Schleswig-Holstein: So geht Jamaika," *Zeit Online*, 14.6.2017, <https://www.zeit.de/politik/deutschland/2017-06/schleswig-holstein-jamaika-koalition-bundestagswahl>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Jamaika-Koalition in Schleswig-Holstein: Temperament-Studie zum neuen Bündnis in Kiel," *Deutschlandfunk*, 15.6.2017, <https://www.deutschlandfunk.de/jamaika-koalition-in-schleswig-holstein-temperament-studie.862.de.html?dram:article_id=388825>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Jamaika-Koalition in Schleswig-Holstein einigt sich auf Windenergie-Mindestabstand," *Windbranche.de*, 17.6.2017, <https://www.windbranche.de/news/nachrichten/artikel-33892-jamaika-koalition-in-schleswig-holstein-einigt-sich-auf-windenergie-mindestabstand>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Gibt es Cannabis bald in der Apotheke?" Kieler Nachrichten, 21.6.2017, <https://www.kn-online.de/Nachrichten/Schleswig-Holstein/Jamaika-Koalition-prueft-Pilotprojekt-Cannabis-in-der-Apotheke>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Jamaika-Koalition in Schleswig-Holstein: Vorbild Günther," *Der Spiegel*, 12.9.2017, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/jamaika-koalition-in-schleswig-holstein-vorbild-daniel-guenther-a-1167095.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

21）"Querelen in der FDP: "Jamaika"-Koalition im Saarland geplatzt," *Der Spiegel*, 6.1.2012, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/querelen-in-der-fdp-jamaika-koalition-im-saarland-geplatzt-a-807575.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Jamaika-Koalition in Schleswig-Holstein: Vorbild Günther," *Der Spiegel*, op.cit.

22）"Vollverschleierung spaltet Jamaika-Koalition," *Welt*, 10.3.2019, ＜https://www.welt.de/politik/deutschland/article189954283/Schleswig-Holstein-Vollverschleierung-spaltet-Jamaika-Koalition.html＞（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Ein Land, drei Weltbilder," *Süddeutsche Zeitung*, 28.6.2019, <https://www.sueddeutsche.de/politik/schleswig-holstein-ein-land-drei-weltbilder-1.4503634>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Cannabis-Freigabe vorerst gescheitert," *Kieler Nachrichten*, 29.7.2019, <https://www.kn-online.de/Nachrichten/Politik/Schleswig-Holstein-Kontrollierte-Cannabis-Freigabe-vorerst-aufgegeben>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Bilanz Jamaika-Koalition in Kiel: Allianz der Gönner," *taz.de*, 9.9.2019, <https://taz.de/Bilanz-Jamaika-Koalition-in-Kiel/!5621468/>（最終閲覧日，2020年

10月25日）; “Halbzeit-Bilanz: Jamaika-Koalition trotz harter Oppositionskritik im Ruhemodus,” *LNONLINE*, 2.11.2019, <https://www.ln-online.de/Nachrichten/Norddeutschland/Halbzeit-Bilanz-Jamaika-Koalition-trotz-harter-Oppositionskritik-im-Ruhemodus>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Jamaika sieht sich gut aufgestellt,” *Kieler Nachrichten*, 4.11.2019 <https://www.kn-online.de/Nachrichten/Schleswig-Holstein/Landeshaus-Halbzeitbilanz-in-der-Jamaika-Koalition>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Daniel Günther will Jamaika-Bündnis über 2022 hinaus,” *idowa*, 5.1.2020, <https://www.idowa.de/inhalt.schleswig-holstein-daniel-guenther-will-jamaika-buendnis-ueber-2022-hinaus.48cceba9-7e56-4563-91fe-0978591e8941.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

23） “Hamburg & Schleswig-Holstein: Umfrage sieht CDU im Norden knapp vor Grünen,” *ntv*, 28.1.2020, <https://www.n-tv.de/regionales/hamburg-und-schleswig-holstein/Umfrage-sieht-CDU-im-Norden-knapp-vor-Gruenen-article21539201.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Stegner setzt auch auf Ampel-Koalition in Schleswig-Holstein,” *RTL.DE*, 16.7.2020, <https://www.rtl.de/cms/stegner-setzt-auch-auf-ampel-koalition-in-schleswig-holstein-4579004.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

24） Everhard Holtmann und Kerstin Völkl, “Die sachsen-anhaltische Landtagswahl vom 13. März 2016: Eingetrübte Grundstimmung, umgeschichtete Machtverhältnisse,” *Zeitschrift für Parlamentsfragen*, Vol. 47, No. 3（2016）, pp. 541–560（とくに S. 541–545）. ザクセン＝アンハルト州の政治に関する研究として，Hendrik Traeger, Sonja Priebus (hrsg.), *Politik und Regieren in Sachsen-Anhalt*, Springer, 2016.

25） Holtmann und Völkl, *op.cit.*, S. 557.

26） “Schwarz-Rot-Grün in Sachsen-Anhalt: CDU-Parteitag stimmt für Kenia-Koalition,” *Der Spiegel*, 22.4.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/sachsen-anhalt-cdu-parteitag-stimmt-fuer-schwarz-rot-gruen-a-1088881.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Sachsen-Anhalt: Die Koalition, die sich selbst toleriert,” *Süddeutsche Zeitung*, 24.4.2016,<https://www.sueddeutsche.de/politik/sachsen-anhalt-die-koalition-die-sich-selbst-toleriert-1.2964218>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “CDU und AfD in Sachsen-Anhalt: Rechte Randgeschichten,” *Der Spiegel*, 27.4.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/sachsen-anhalt-annaeherungen-zwischen-afd-und-cdu-a-1089408.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

27） “Streit zwischen CDU und SPD über Kommission zu Linksextremismus,” *Du bist Halle*, 26.8.2017, <https://dubisthalle.de/streit-zwischen-cdu-und-spd-ueber-kommission-zu-linksextremismus>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “CDU stimmt mit AfD für »Linksextremismus«-Enquete,” *neues-deutschland*, 26.8.2017, <https://www.neues-deutschland.de/artikel/1061688.cdu-stimmt-mit-afd-fuer-linksextremismus-enquete.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

28）“CDU und AfD: Im Feindbild vereint. Wie die CDU in Sachsen-Anhalt das Feld der AfD bestellt,” *Transit*, 19.12.2017, <https://transit-magazin.de/2017/12/im-feindbild-vereint/>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Landtag: AfD will Grünen-Politiker loswerden,” *Volksstimme.de*, 19.12.2017, <https://www.volksstimme.de/sachsen-anhalt/landtag-afd-will-gruenen-politiker-loswerden>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

29）“Landtag: Beauftragter für Datenschutz durchgefallen,” *Volksstimme.de*, 8.3.2018, <https://www.volksstimme.de/sachsen-anhalt/landtag-beauftragter-fuer-datenschutz-durchgefallen>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Schwarz-Rot-Grün in Sachsen-Anhalt: Kenia kämpft - vor allem mit sich selbst,” *Der Spiegel*, 8/5/2018, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/sachsen-anhalt-kenia-koalition-in-der-dauerkrise-a-1206071.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

30）“Umstrittener Polizeigewerkschafter: Rainer Wendt wird Staatssekretär in Magdeburg,” *Der Spiegel*, 22.11.2019, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/rainer-wendt-polizeigewerkschafter-wird-staatssekretaer-in-magdeburg-sachsen-anhalt-a-1297815.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Umstrittener Polizeigewerkschafter: SPD und Grüne wollen Wendt als Staatssekretär verhindern,” *Der Spiegel*, 23.11.2019, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/rainer-wendt-spd-und-gruene-wollen-polizeigewerkschafter-nicht-als-staatssekretaer-a-1297965.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Umstrittener Polizeigewerkschafter: Wendt wird nicht Staatssekretär,” *taz.de*, 25.11.2019, <https://taz.de/Umstrittener-Polizeigewerkschafter/!5643624/>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

31）“CDU-Mann mit rechtsextremer Vergangenheit: Sachsen-Anhalts Sündenfall,” *Der Spiegel*, 15.12.2019, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/sachsen-anhalt-die-cdu-uniter-und-der-ex-neonazi-a-1301351.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Kenia-Koalition in Sachsen-Anhalt - Die kopflose und nervöse CDU,” *Cicero*, 16.12.2019, <https://www.cicero.de/innenpolitik/kenia-koalition-sachsen-anhalt-holger-stahlknecht-cdu-afd/plus>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Nazi-Debatte in der CDU: Die Fragen bleiben,” *Der Spiegel*, 20.12.2019, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/robert-moeritz-die-causa-in-sachsen-anhalt-ist-fuer-die-cdu-noch-nicht-beendet-a-1302290.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

32）“Kenia-Bündnis in Sachsen-Anhalt: Die härteste Koalition Deutschlands,” *Der Spiegel*, 20.2.2020, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/sachsen-anhalt-das-erstaunliche-ueberleben-der-kenia-koalition-a-b175fa35-08ce-41b1-8a80-19ee205e196c>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

33）Torsten Oppelland,“Die thüringische Landtagswahl vom 14. September 2014: Startschuss zum Experiment einer rot-rot-grünen Koalition unter linker Führung,” *Zeitschrift für Parlamentsfragen*, Vol. 46, No. 1（2015）, S. 39–56.（とくに，S.

39−41.）

34） *Ibid.*, S. 40−42; “Linker Ramelow vor Thüringen-Wahl: Bodo, Bodo, Bodo,” *Der Spiegel*, 10.9.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/bodo-ramelow-von-den-linken-will-in-thueringen-ministerpraesident-werden-a-988565.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

35） “Regierungsbildung in Thüringen: Grüne erwägen Koalition mit der Linkspartei,” *Der Spiegel*, 15.9.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/thueringen-lieberknecht-wirbt-um-gruene-oder-koalition-mit-ramelow-a-991642.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Nach Landtagswahl: Grüne wollen vorerst nicht mit CDU reden,” *Der Spiegel*, 23.9.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/koalition-in-thueringen-gruene-und-cdu-schliessen-zusammenarbeit-aus-a-993169.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Erster linker Ministerpräsident: Thüringen steuert auf Rot-Rot-Grün zu,” *Der Spiegel*, 16.10.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/thueringen-spd-steuert-auf-rot-rot-gruen-zu-a-997307.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

36） “Linkes Bündnis in Thüringen: Mehrheit der Deutschen lehnt Rot-Rot-Grün im Bund ab,” *Der Spiegel*, 24.10.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/rot-rot-gruen-in-thueringen-deutsche-lehnen-linkes-buendnis-ab-a-999094.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Rot-Rot-Grün in Thüringen: Gauck hadert mit Ministerpräsidenten der Linkspartei,” *Der Spiegel*, 1.11.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/rot-rot-gruen-in-thueringen-joachim-gauck-hadert-mit-ramelow-a-1000570.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Erfurt: Tausende demonstrieren gegen Rot-Rot-Grün,” *Der Spiegel*, 9.11.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/rot-rot-gruen-demonstranten-in-erfurt-gegen-spd-linke-buendnis-a-1001931.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Streit um Linksbündnis in Thüringen: Ramelow attackiert Merkel und Gauck,” *Der Spiegel*, 16.11.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/rot-rot-gruen-in-thueringen-bodo-ramelow-attackiert-merkel-und-gauck-a-1003008.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Rot-Rot-Grün in Erfurt: Koalitionsvertrag in Thüringen steht,” *Der Spiegel*, 19.11.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/thueringen-rot-rot-gruen-in-erfurt-besiegelt-a-1003900.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Rot-Rot-Grün: Kauder will der SPD Ramelows Wahl “nicht so schnell vergessen,” “*Der Spiegel*, 5.12.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/rot-rot-gruen-in-thueringen-kauder-droht-der-spd-vor-ramelow-wahl-a-1006725.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Minutenprotokoll zur Wahl in Thüringen: Ramelow entschuldigt sich bei Stasi-Opfern,” *Der Spiegel*, 5.12.2014, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/thueringen-wahl-bodo-ramelow-will-ministerpraesident-werden-a-1006631.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

37） “Rot-Rot-Grün in Thüringen: Bilanz von erster Links-Regierung: Sein wichtigstes

Ziel hat Ramelow nicht erreicht," *Online Focus*, 25.10.2019, <https://www.focus.de/politik/deutschland/fuenf-jahre-ramelow-in-thueringen-hauptprojekt-gescheitert-andere-geloest-erste-linke-landesregierung-mit-gemischter-bilanz_id_11272968.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

38）"SPD und Grüne in Thüringen: In Ramelows Schatten," *taz.de*, 21.10.2019, <https://taz.de/SPD-und-Gruene-in-Thueringen/!5631748/>（最終閲覧日，2020年10月25日）; " Bilanz in Thüringen: Was hat Rot-Rot-Grün geschafft?" *ntv*, 21.10.2019, <https://www.n-tv.de/politik/Was-hat-Rot-Rot-Gruen-geschafft-article21343070.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Rot-Rot-Grün in Thüringen: Bilanz von erster Links-Regierung: Sein wichtigstes Ziel hat Ramelow nicht erreicht," *Online Focus*, op.cit.; "Rot-Rot-Grün vor Landtagswahlen in Thüringen: Experiment geglückt - Wahlsieg gefährdet," *Der Spiegel*, 26.10.2019, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/landtagswahlen-in-thueringen-was-rot-rot-gruen-fuer-spd-linke-und-gruene-bedeutet-a-1293018.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Wahl in Thüringen: Der Sozialismus musste warten," *Zeit Online*, 27.10.2019, <https://www.zeit.de/politik/deutschland/2019-10/wahl-in-thueringen-die-linke-regierung-bodo-ramelow>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

39）参照した資料は注38とすべて同じ。

40）"Kramp-Karrenbauer schließt Zusammenarbeit mit der AfD aus," *Süddeutsche Zeitung*, 24.6.2019, <https://www.sueddeutsche.de/politik/cdu-afd-kramp-karrenbauer-1.4496602>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Regierungsbildung: Welche Koalitionen in Thüringen möglich sind," *mdr Thüringen*, 28.10.2019, <https://www.mdr.de/thueringen/landtagswahl/thueringen-hat-gewaehlt-koalitionen-100.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Thüringen: nach der Wahl Mohring: Keine Koalition mit Linke oder AfD," *mdr Thüringen*, 29.10.2019, <https://www.mdr.de/thueringen/mitte-west-thueringen/erfurt/mohring-keine-koalition-linke-100.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Minderheitsregierung ade? CDU: Weder Duldung noch Tolerierung von Rot-Rot-Grün," *mdr Thüringen*, 30.10.2019, ＜https://www.mdr.de/thueringen/keine-minderheitsregierung-tolerierung-cdu-100.html＞（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Tiefensee: Simbabwe-Koalition ist ausgeschlossen," *RTL.DE*, 19.11.2019, <https://www.rtl.de/cms/tiefensee-simbabwe-koalition-ist-ausgeschlossen-4439952.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Erfurt: Linke, SPD und Grüne legen sich auf Minderheitsregierung fest," *mdr Thüringen*, 2.12.2019, <https://www.mdr.de/thueringen/landtagswahl/neue-sondierungsgespraeche-gruene-linke-spd-100.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

41）"Wahl des Ministerpräsidenten Live-Ticker: Demos nach Polit-Beben in Thüringen - Union fordert Neuwahlen," *mdr Thüringen*, 2.5.2020, <https://www.mdr.de/thueringen/ministerpraesident-wahl-ticker-kemmerich-fdp100.html>（最終

閲覧日，2020年10月25日）; “Chronologie: Abstimmung ohne Sieger - Thüringen seit der Landtagswahl,” *Westfalen-Blatt*, 7.2.2020, <https://www.westfalen-blatt.de/Ueberregional/Nachrichten/Hintergrund/4123789-Chronologie-Abstimmung-ohne-Sieger-Thueringen-seit-der-Landtagswahl>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

42） “FDP-Politiker: Kemmerich will sein Amt als Thüringer Ministerpräsident aufgeben,” *Der Spiegel*, 6.2.2020, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/kemmerich-tritt-als-thueringer-ministerpraesident-zurueck-a-67c9e27b-a104-4f91-9285-326f51b012bf>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Die Lage am Abend: Kramp-Karrenbauer wirft hin – Der große Bruch,” *Der Spiegel*, 10.2.2020, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/news-des-tages-annegret-kramp-karrenbauer-wirft-hin-der-grosse-bruch-a-0396ed45-689b-40fe-a3ec-7299a6685bd5>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Regierungsbildung in Thüringen: Erfurter Pakt,” *Der Spiegel*, 22.2.2020, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/thueringen-erstmals-in-deutschland-wollen-cdu-und-linke-zusammenarbeiten-a-8c844a2a-1f2d-44bc-a52d-1976877c01ff>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Thüringer CDU will Rot-Rot-Grün befristet mittragen,” *neues-deutschland*, 22.2.2020, <https://www.neues-deutschland.de/artikel/1133262.thueringen-thueringer-cdu-will-rot-rot-gruen-befristet-mittragen.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Thüringer Landtag: Bodo Ramelow zum Ministerpräsidenten gewählt,” *Der Spiegel*, 4.3.2020, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/thueringen-bodo-ramelow-zum-ministerpraesidenten-gewaehlt-a-90ba1c52-5592-4f0d-b501-72d1aaefdc93>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

43） Heiko Gothe, “Die rheinland-pfälzische Landtagswahl vom 13. März 2016: Populäre SPD-Ministerpräsidentin führt Rheinland-Pfalz in Ampel-Koalition,” *Zeitschrift für Parlamentsfragen*, Vol. 47, No. 3（2016）, S. 519–540（とくに S. 519）; Manuela Glaab, “Ein Wahlkampf mit überraschenden Wendungen – Beobachtungen zur Landtagswahl in Rheinland-Pfalz vom 13. März 2016,” 18.3.2016, <https://regierungsforschung.de/ein-wahlkampf-mit-ueberraschenden-wendungen-beobachtungen-zur-landtagswahl-in-rheinland-pfalz-vom-13-maerz-2016/>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

44） Gothe, *op.cit.*, S. 519–525; Glaab, *op.cit.*; “Mainzer Wahlsiegerin Dreyer: Die SPD jubelt ihre Probleme weg,” *Der Spiegel*, 13.3.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/rheinland-pfalz-spd-triumphiert-bei-landtagswahl-die-analyse-a-1082122.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Analyse von Wahlforschern: Wahlsieg dank Malu,” *SWR Aktuell*, 3.13.1016, <https://www.swr.de/swraktuell/diewahlbeiuns/analyse-von-wahlforschern-wahlsieg-dank-malu/-/id=4869426/did=17109480/nid=4869426/18zkj1r/index.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Wahlanalysen: Wie die SPD Rheinland-Pfalz verteidigt,” *Der Spiegel*, 14.3.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/landtagswahl-2016-wie-die-spd-rheinland-pfalz-verteidigt-a-1081495.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Beharrlich bis zum

Überdruss: Die Grünen in Mainz haben zu wenig auf die Bürger gehört," *Süddeutschen Zeitung*, 14.3.2016, <https://www.sueddeutsche.de/politik/rheinland-pfalz-beharrlich-bis-zum-ueberdruss-1.2906762>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

45） "Landtagswahl in Rheinland-Pfalz: SPD hofft auf Ampelkoalition," *Der Spiegel*, 3.13.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/landtagswahl-in-rheinland-pfalz-ampel-oder-grosse-koalition-a-1082115.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Rheinland-Pfalz: Auch FDP will über Ampelkoalition verhandeln," *Der Spiegel*, 29.3.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/rheinland-pfalz-fdp-will-mit-spd-und-gruenen-ueber-ampelkoalition-verhandeln-a-1084572.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

46） "Koalitionsverhandlungen in Rheinland-Pfalz: Ampel-Koalition in Rheinland-Pfalz steht," *Süddeutschen Zeitung*, 21.4.2016, <https://www.sueddeutsche.de/politik/koalitionsverhandlungen-in-rheinland-pfalz-ampel-koalition-in-rheinland-pfalz-steht-1.2960613>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Ampelkoalition in Rheinland-Pfalz: Das Dreyer-Bündnis," Der Spiegel, 22.4.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/rheinland-pfalz-spd-fdp-und-gruene-das-dreyer-buendnis-a-1088606.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

47） "Ampel-Halbzeit in Rheinland-Pfalz: Glanzlos, aber nicht gänzlich erfolglos," *Allgemeine Zeitung*, 6.11.2018, <https://www.allgemeine-zeitung.de/politik/rheinland-pfalz/ampel-halbzeit-in-rheinland-pfalz-glanzlos-aber-nicht-ganzlich-erfolglos_19164914>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Halbzeit für die Landesregierung: Wie stabil ist die Ampel?" *SWR1*, 7.11.2018, <https://www.swr.de/swr1/rp/halbzeit-fuer-die-landesregierung-wie-stabil-ist-die-ampel/-/id=233366/did=22787456/nid=233366/3yumay/index.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Durchwachsene Halbzeitbilanz der Ampel-Koalition," *Die Rheinpfalz*, 7.11.2018, <https://www.rheinpfalz.de/nachrichten/politik/artikel/durchwachsene-halbzeitbilanz-der-ampel-koalition/>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Dreyer will Ampelkoalition im Land nach 2021 fortsetzen," *volksfreund*, 7.11.2018, <https://www.volksfreund.de/region/rheinland-pfalz/dreyer-will-ampelkoalition-im-land-nach-2021-fortsetzen_aid-34346971>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

48） "Dreyer will Ampelkoalition im Land nach 2021 fortsetzen," *volksfreund, op.cit.*; "Rheinland-Pfalz & Saarland: Konservative in der FDP wollen keine Ampel-Festlegung," *ntv*, 22.8.2020, <https://www.n-tv.de/regionales/rheinland-pfalz-und-saarland/Konservative-in-der-FDP-wollen-keine-Ampel-Festlegung-article21988384.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

49） "Hauptstadt-Wahl: Berliner zwingen Müller zu Rot-Rot-Grün," *Der Spiegel*, 18.9.2016, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/wahl-berlin-2016-rot-rot-gruen-in-berlin-wahrscheinlich-analyse-a-1112826.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; "Wählerwanderungen: Wo sind sie geblieben?" *Der Tagesspiegel*, 20.9.2016,

<https://www.tagesspiegel.de/politik/waehlerwanderungen-wo-sind-sie-geblieben/14569038.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Sondierungsgespräche in Berlin: Wer verhandelt mit wem über was?” *Der Tagesspiegel*, 22.9.2016, <https://www.tagesspiegel.de/politik/sondierungsgespraeche-in-berlin-wer-verhandelt-mit-wem-ueber-was/14582158.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

50） erliner Koalition: Der rot-rot-grüne Senat gibt ein desolates Bild ab, ”*Berliner Morgenpost*, 9.10.2019, <https://www.morgenpost.de/meinung/article227322419/Der-rot-rot-gruene-Senat-gibt-ein-desolates-Bild-ab.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Rot-Rot-Grün in Berlin: Koalition mit Kratzern,” *Süddeutsche Zeitung*, 28.11.2019, <https://www.sueddeutsche.de/politik/berlin-rot-rot-gruen-mueller-1.4702000>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Rot-Rot-Grün und die Enteignungsfrage: Links, aber nicht link,” *taz.de*, 9.3.2020, <https://taz.de/Rot-Rot-Gruen-und-die-Enteignungsfrage/!5670022/>（最終閲覧日，2020年10月25日）; Nächste Niederlage für Regine Günther: SPD stoppt Abstimmung über Klimapaket im Berliner Senat,” *Der Tagesspiegel*, 8.9.2020, <https://www.tagesspiegel.de/berlin/naechste-niederlage-fuer-regine-guenther-spd-stoppt-abstimmung-ueber-klimapaket-im-berliner-senat/26167466.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; Heftiger Schlagabtausch Streit übers Klima stürzt Berliner Koalition in die Krise,“ *Der Tagesspiegel*, 9.9.2020, <https://www.tagesspiegel.de/berlin/heftiger-schlagabtausch-streit-uebers-klima-stuerzt-berliner-koalition-in-die-krise/26172184.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; Nervenkrieg bei Rot-Rot-Grün: Ein Jahr vor der Wahl gehen SPD und Grüne in Berlin aufeinander los,” *Der tagesspiegel*, 13.9.2020, <https://www.tagesspiegel.de/berlin/nervenkrieg-bei-rot-rot-gruen-ein-jahr-vor-der-wahl-gehen-spd-und-gruene-in-berlin-aufeinander-los/26182636.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

51） “Nahles tritt als Partei - und Fraktionschefin zurück,” *Süddeutsche Zeitung*, 2.6.2019, <https://www.sueddeutsche.de/politik/nahles-spd-ruecktritt-vorsitzende-1.4470803>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

52） “SPD: Bremer Bürgermeister Sieling verzichtet auf zweite Amtszeit,” *Der Spiegel*, 1.7.2019, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/carsten-sieling-spd-buergermeister-von-bremen-verzichtet-auf-zweite-amtszeit-a-1275211.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “Ein Jahr Rot-Grün-Rot: Bremens Bürgermeister überzeugt in der Krise,” *Weser Kurier*, 4.8.2020, <https://www.weser-kurier.de/bremen/bremen-stadt_artikel,-bremens-buergermeister-ueberzeugt-in-der-krise-_arid,1926704.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

53） “Koalitionsverhandlungen in Brandenburg: Ostdeutschland wird Kenia,” *Der Spiegel*, 20.9.2019, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/koalitionsverhandlungen-in-brandenburg-ostdeutschland-wird-kenia-a-1287706.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

54）“Regierungsbildung in Brandenburg und Sachsen: Wette auf Kenia,” *Der Spiegel*, 28.9.2019, <https://www.spiegel.de/politik/deutschland/regierung-in-brandenburg-und-sachsen-kenia-koalition-in-sachsen-anhalt-hat-es-schwer-a-1289062.html>（最終閲覧日，2020年10月25日）。

55）“CDU-Vorsitz: Friedrich Merz könnte für Schwarz-Grün sogar von Vorteil sein,” *Zeitonline*, 23.2.2020, <https://www.zeit.de/politik/deutschland/2020-02/cdu-vorsitz-armin-laschet-gruene-koalition>（最終閲覧日，2020年10月25日）; “CDU-Kanzlerkandidaten: Wer wäre der beste Kanzler für Schwarz-Grün?” *Zeitonline*, 1.7.2020, <https://www.zeit.de/politik/deutschland/2020-06/cdu-kanzlerkandidaten-schwarz-gruen-bundestagswahl-markus-soeder>（最終閲覧日，2020年10月25日）。